母さんの残業



息子の友達に狂わされてイク母親…



R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止

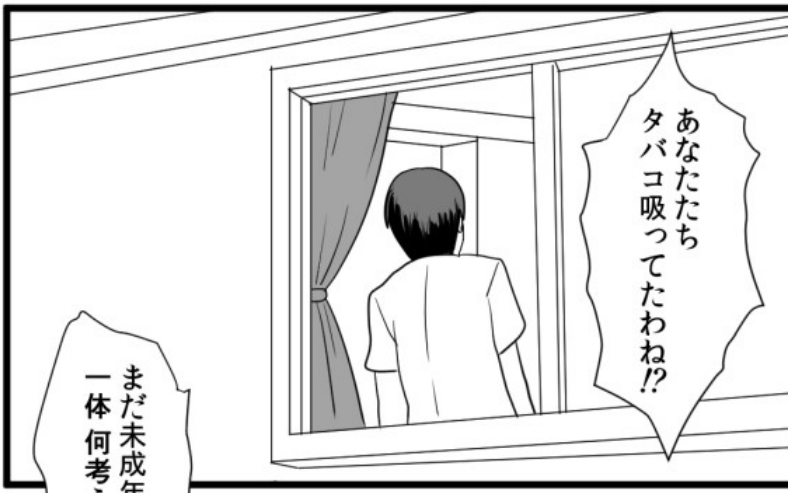
母さんの残業



R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止

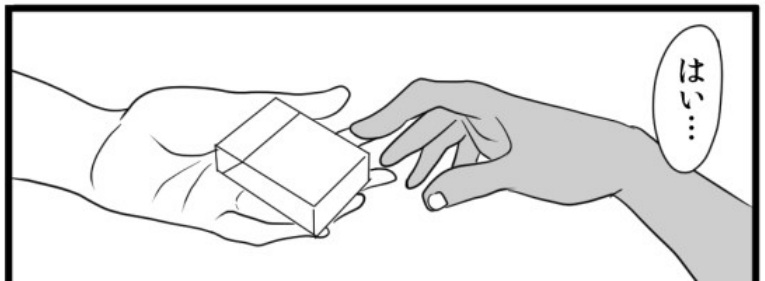

ただいまー
貴博
お母さん帰ったわよー
あら？
誰か来てるのかしら
やばッ！
母さん帰ってきた！
それ早く消して！
ガチャ
貴博？
あんた何騒いでんの？


え…
この臭いは…
お…おかえり
ハハ…
お邪魔してます…


あなたたち
タバコ吸ってたわね!?


まだ未成年でしょ!!
一体 何考えてるの!!

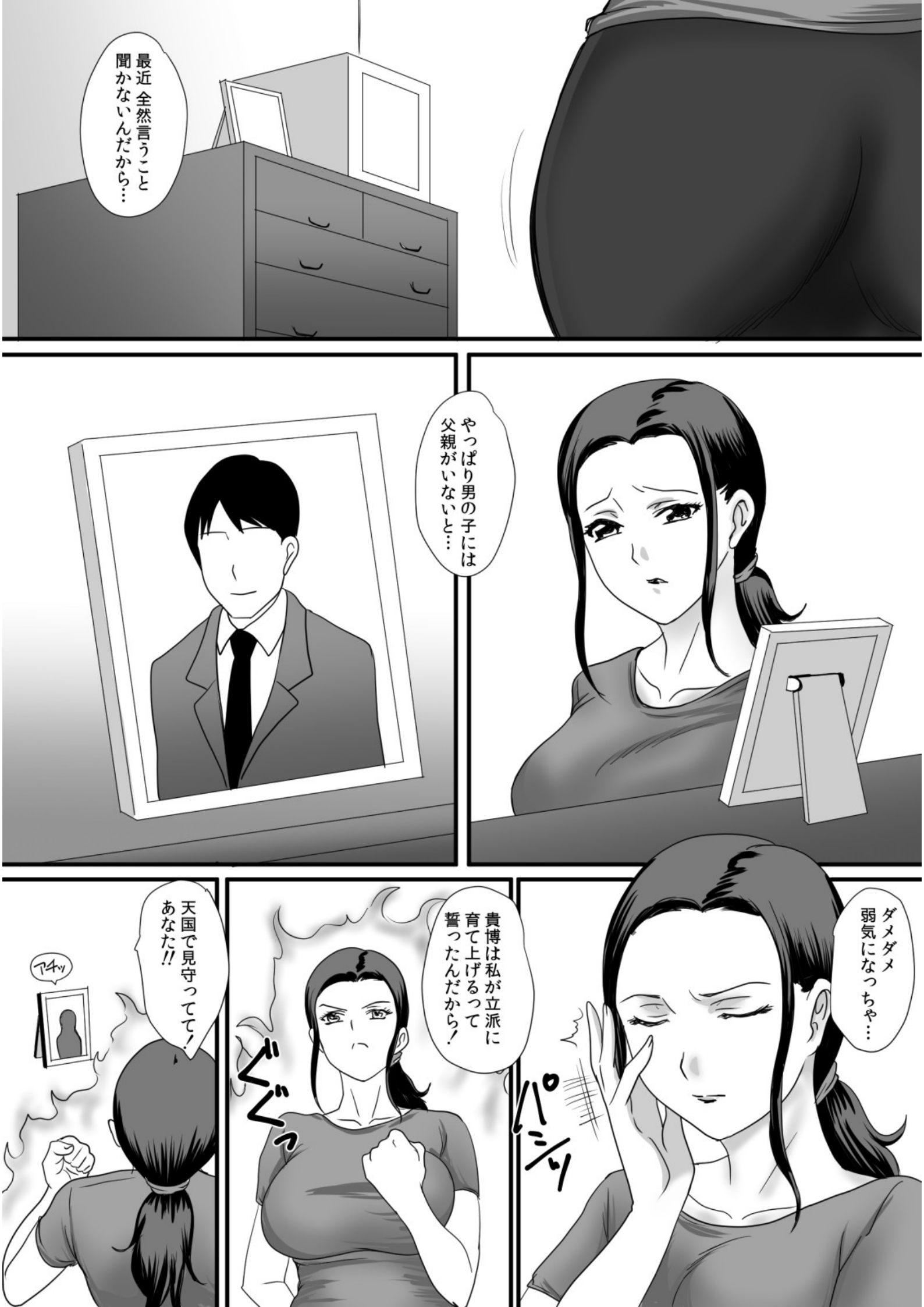

出しなさい!
ホラ 早く!!

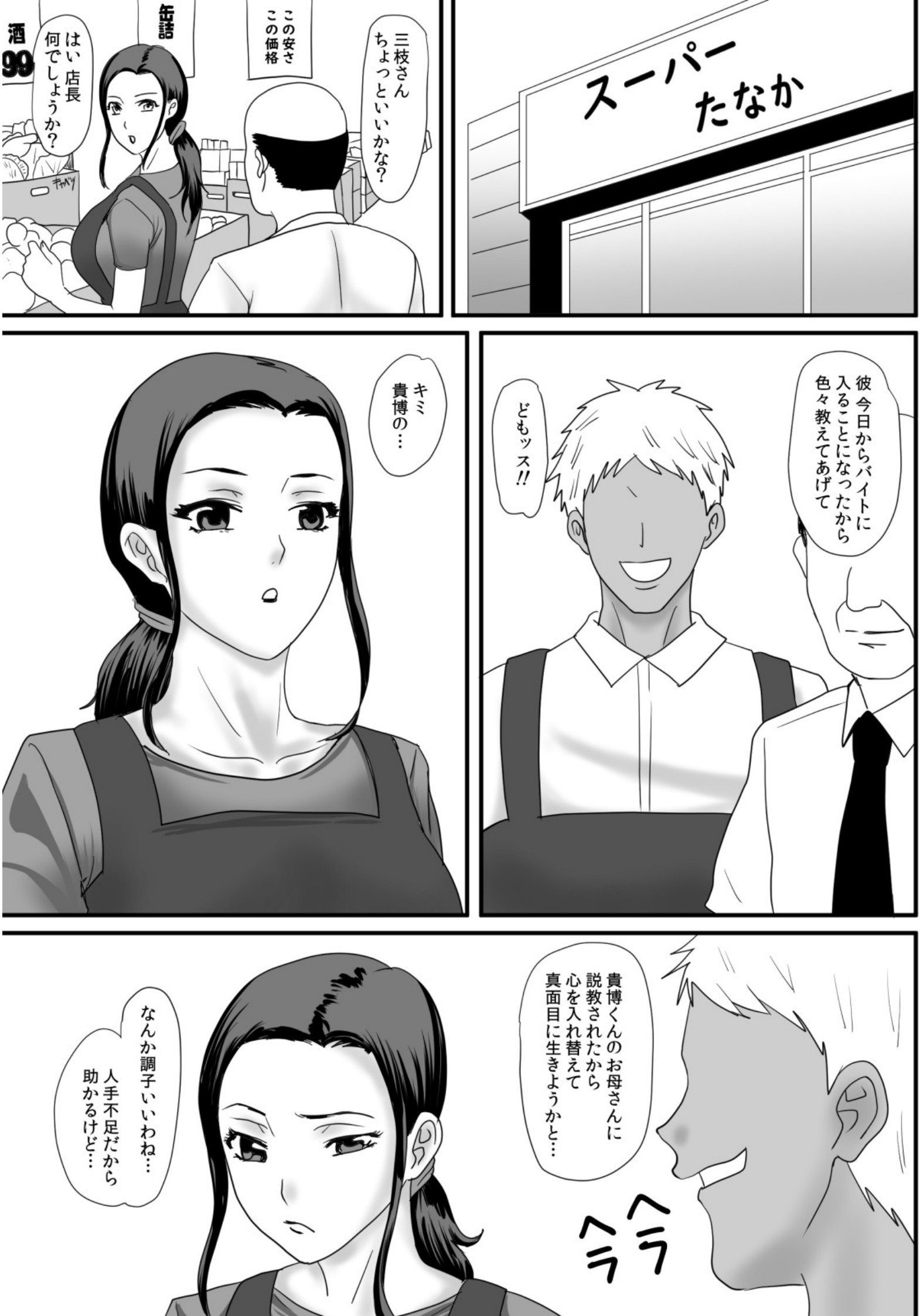

はい…


キミの家ではどうか知らないけど…
ウチで好き勝手は許しませんからね！
分かったらもう帰りなさい
は～いお邪魔しました～
ペッ!!
ビチャッ
タバコぐれえで説教垂れやがって…
クソウゼェ…
…にしても貴博（あいつ）の母親エロい体してやがったな…


ああいう気の強い年増を
四つん這いにさせて
ケツ穴を拝みながら
ハメ倒すってのも悪くねえな…

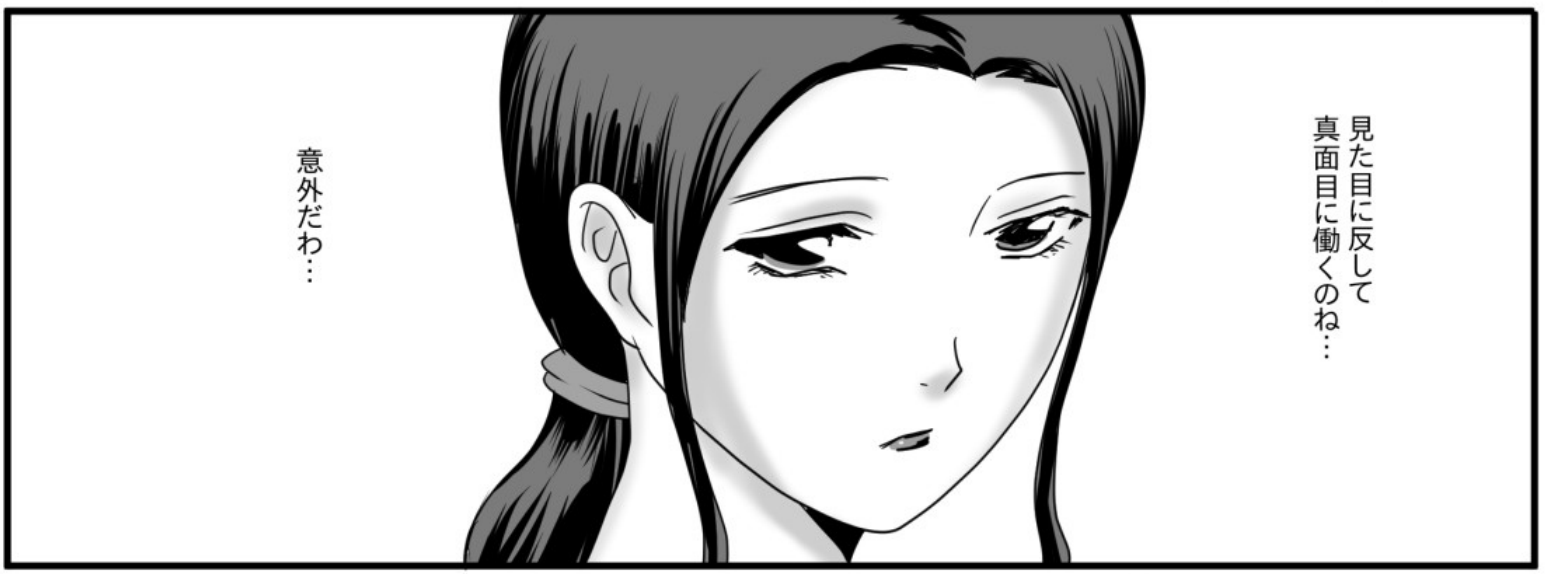

お母さん
ああいう子と付き合うの
感心しないわね
友達はちゃんと
選ばないと
ダメじゃない
そんなことじゃ
天国のお父さんに
顔向けできないわよ
ガタッ
ああもう！
分かったってば!!
あん！
ちょっと…!!
ほら出てってよ！
勉強するんだから！
ガターッ
コラ！
貴博！
話はまだ
終わってないわよ！
もう!!

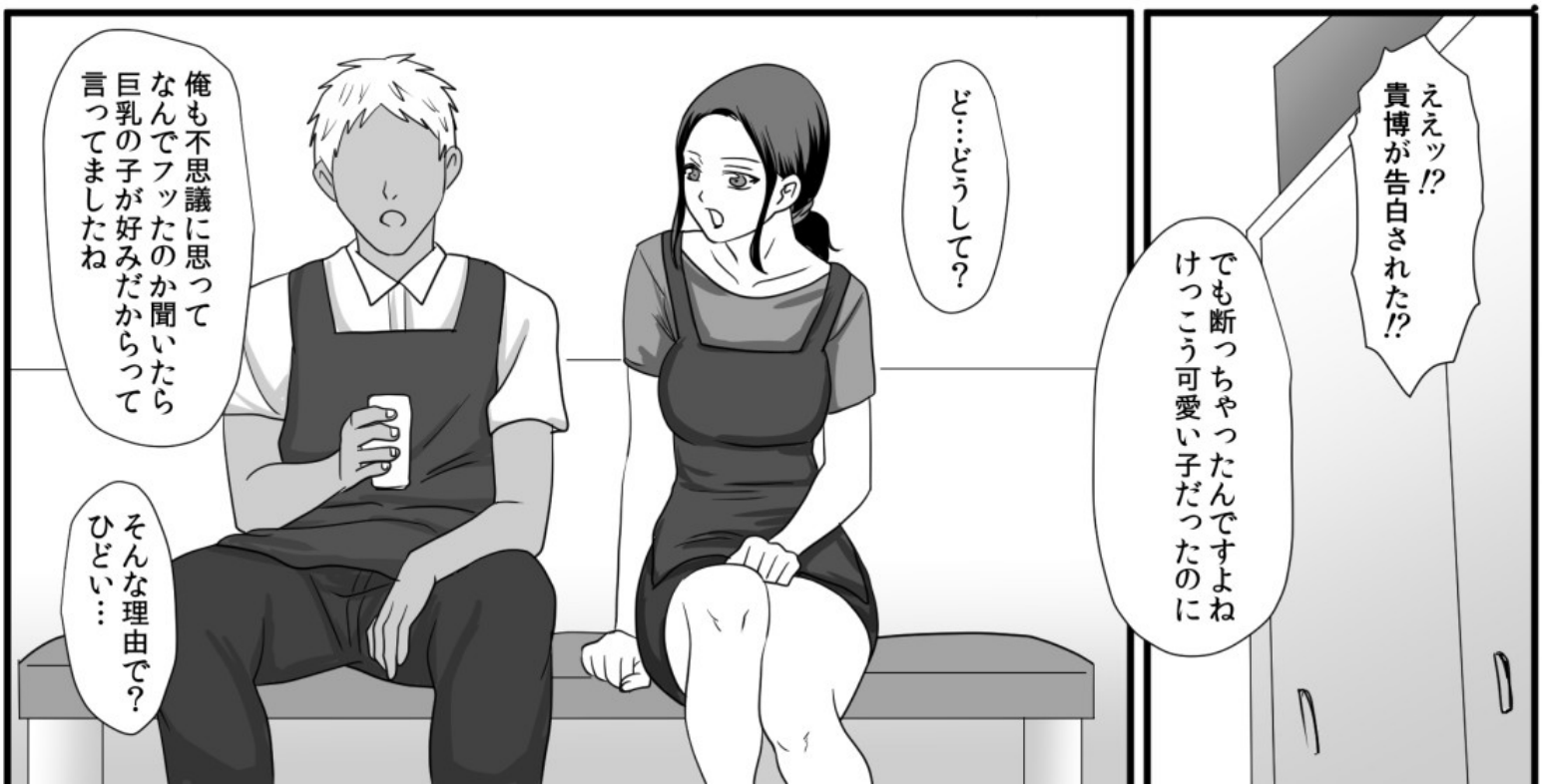

最近 全然言うこと
聞かないんだから…
やっぱり男の子には
父親がいないと…
ダメダメ
弱気になっちゃ…
パシッ
貴博は私が立派に
育て上げるって
誓ったんだから!
ぐぐっ
アイツッ
天国で見守ってて!
あなた!!


スーパー
たなか
三枝さん
ちょっといいかな?
この安さ
この価格
缶詰
酒
99
はい 店長
何でしょうか?
彼今日からバイトに
入ることになったから
色々教えてあげて
どもッス!!
キミ
貴博の…
貴博くんのお母さんに
説教されたから
心を入れ替えて
真面目に生きようかと…
ヘラヘラ
なんか調子いいわね…
人手不足だから
助かるけど…


アチィ…



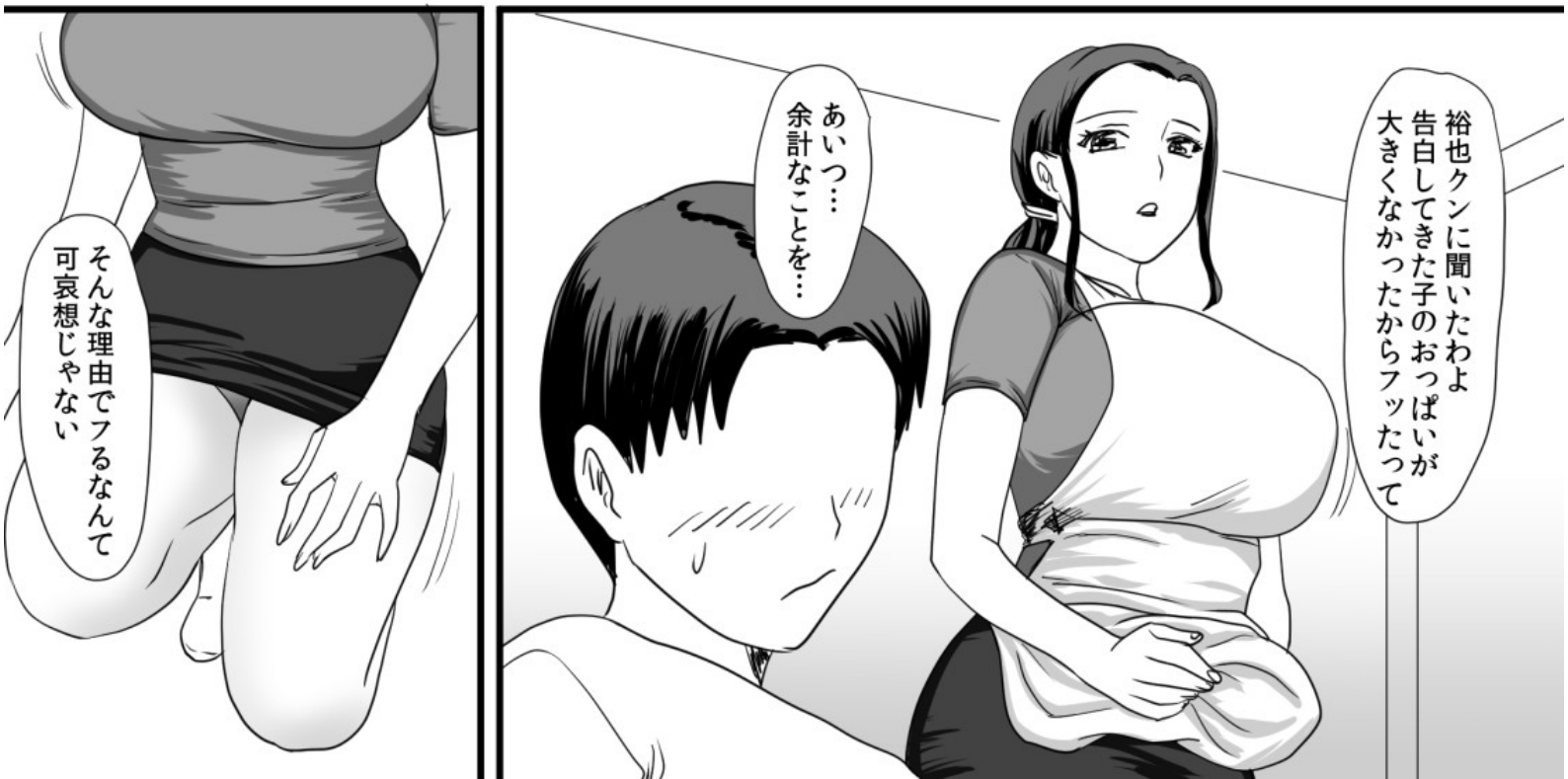

見た目に反して
真面目に働くのね…
意外だわ…

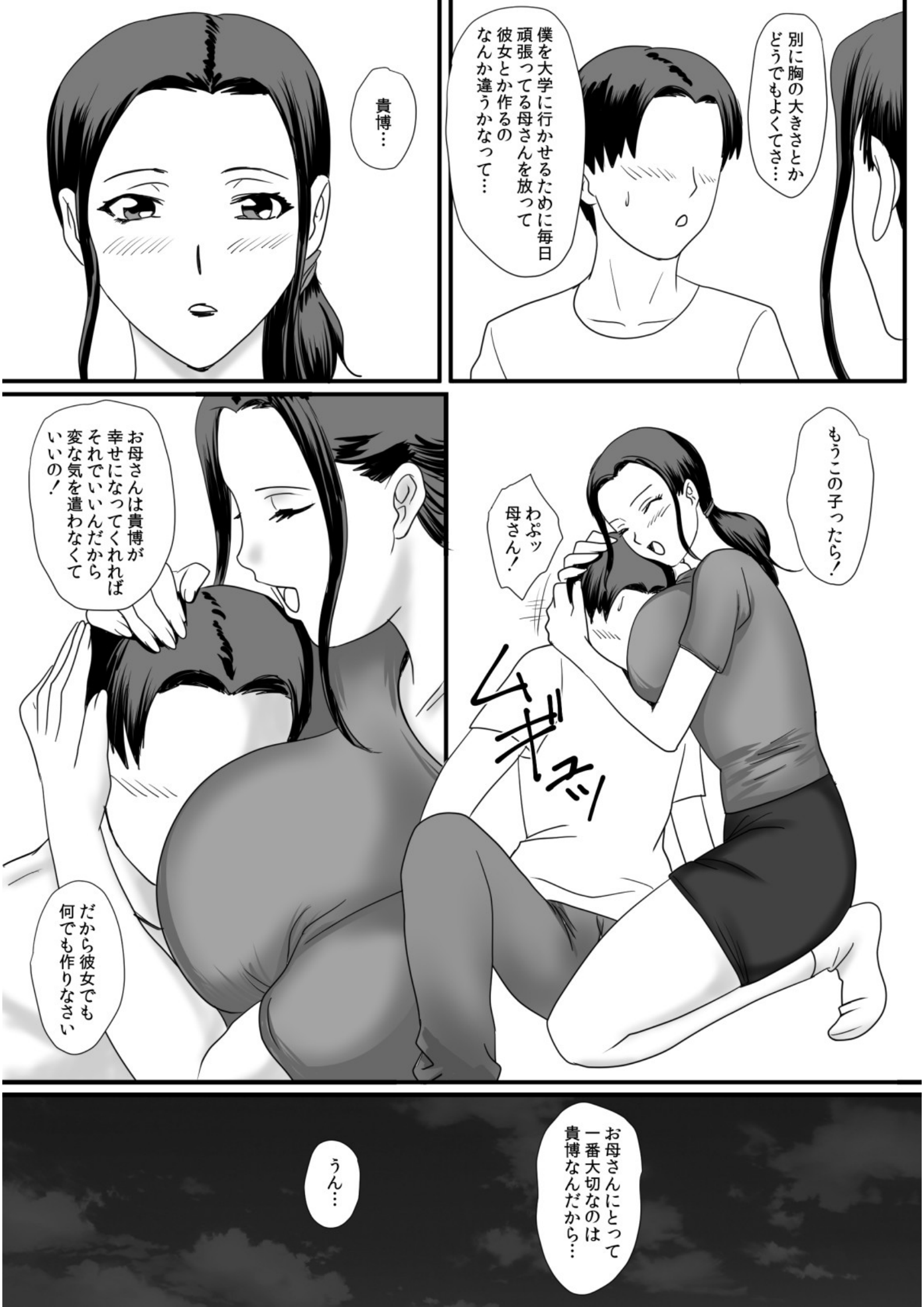

ええッ!?
貴博が告白された!?
でも断っちゃったんですよね
けっこう可愛い子だったのに
ど…どうして?
俺も不思議に思って
なんでフッたのか聞いたら
巨乳の子が好みだからって
言ってましたね
そんな理由で?
ひどい…


でも おっぱい星人なのは
あの人と一緒ね…
なに笑ってんですか?
クスッ
へへ…
でも 貴博が巨乳好きになったのって
絶対 登喜子さんのせいですよ
なんで
私のせいなのよ
!!!
生まれた時からこれだけ
デカイのが目の前にあったらね
ぐわッ!!
カ!!スッ!!
年上にセクハラしない!!
ほらッ 休憩終わり!!
イテテッ!!
これってパワハラだろ!!

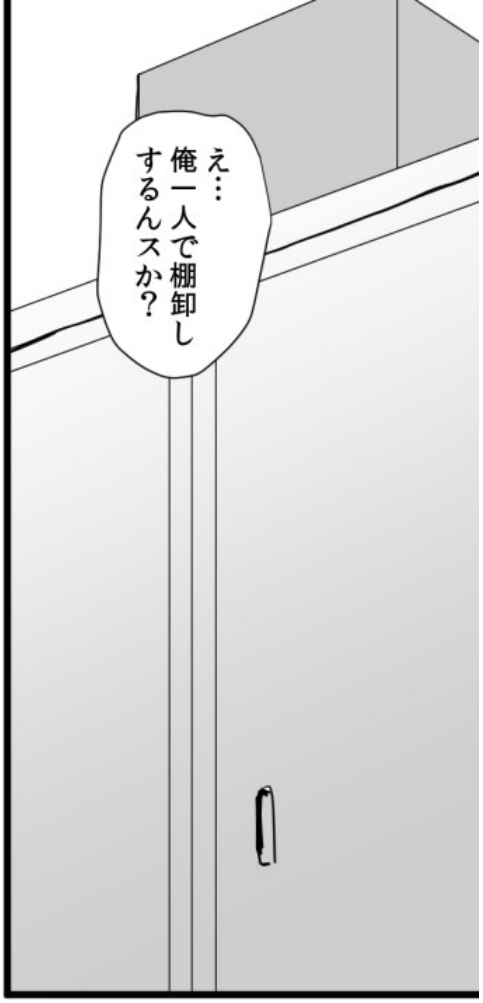

ねえ貴博…
んー？
ズズッ
ジャアアア

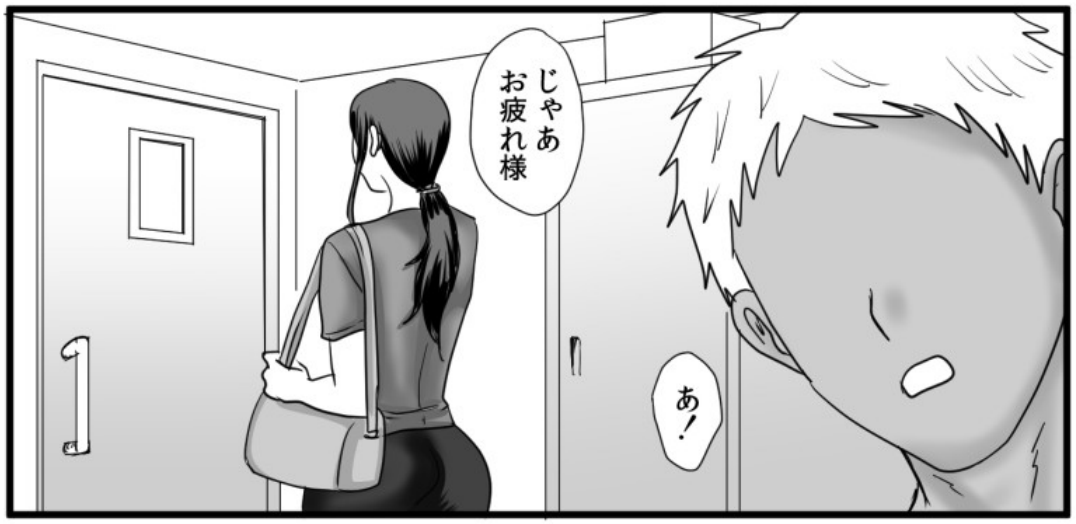
あんたおっぱい大きい子が好きなんだって？
オホッ
いきなり何!?
ゴホッゴホッ


裕也クンに聞いたわよ告白してきた子のおっぱいが大きくなかったからフッたって
あいつ…余計なことを…
そんな理由でフるなんて可哀想じゃない


別に胸の大きさとかどうでもよくてさ…
僕を大学に行かせるために毎日頑張ってる母さんを放って彼女とか作るのなんか違うかなって…
貴博…
もうこの子ったら！
わぷッ母さん！
ムギュ
お母さんは貴博が幸せになってくれればそれでいいんだから変な気を遣わなくていいの！
だから彼女でも何でも作りなさい
お母さんにとって一番大切なのは貴博なんだから…
うん…


いやあ
申し訳ない
どうしても外せない
用があってね…
うへえ…


え…
俺一人で棚卸し
するんスか？


じゃあ
お疲れ様
あ！

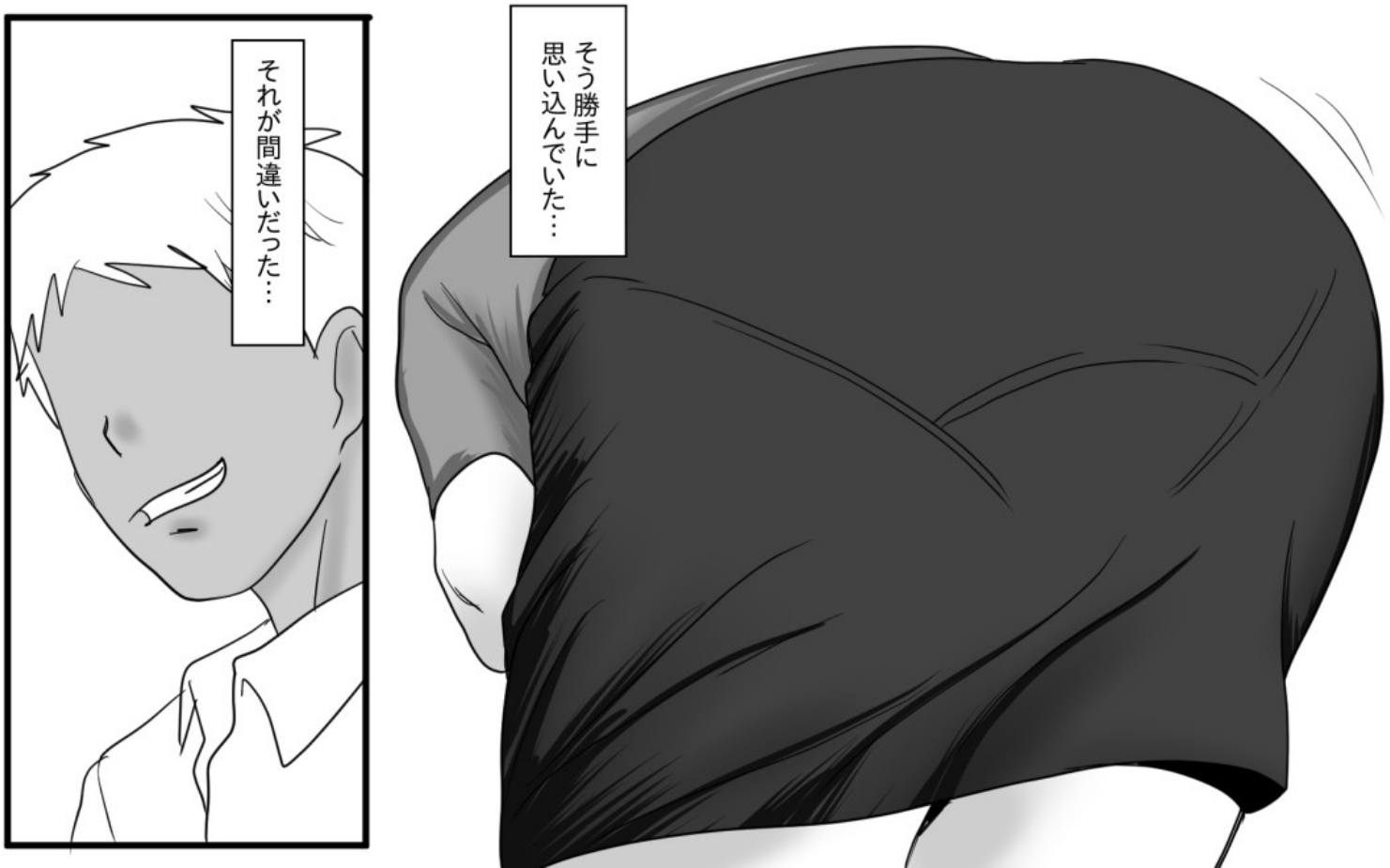

ちょっとだけ！
ちょっとだけでいいんで
お時間ください！
オナシャス!!


…しょうがないわね
貴博に電話してくるから
先に始めてて
あざっス!!


貴博？
お母さんちょっと
残業で遅くなるから
じゃあ晩御飯は
出前とっとくね
うんそうして
じゃあね


♪

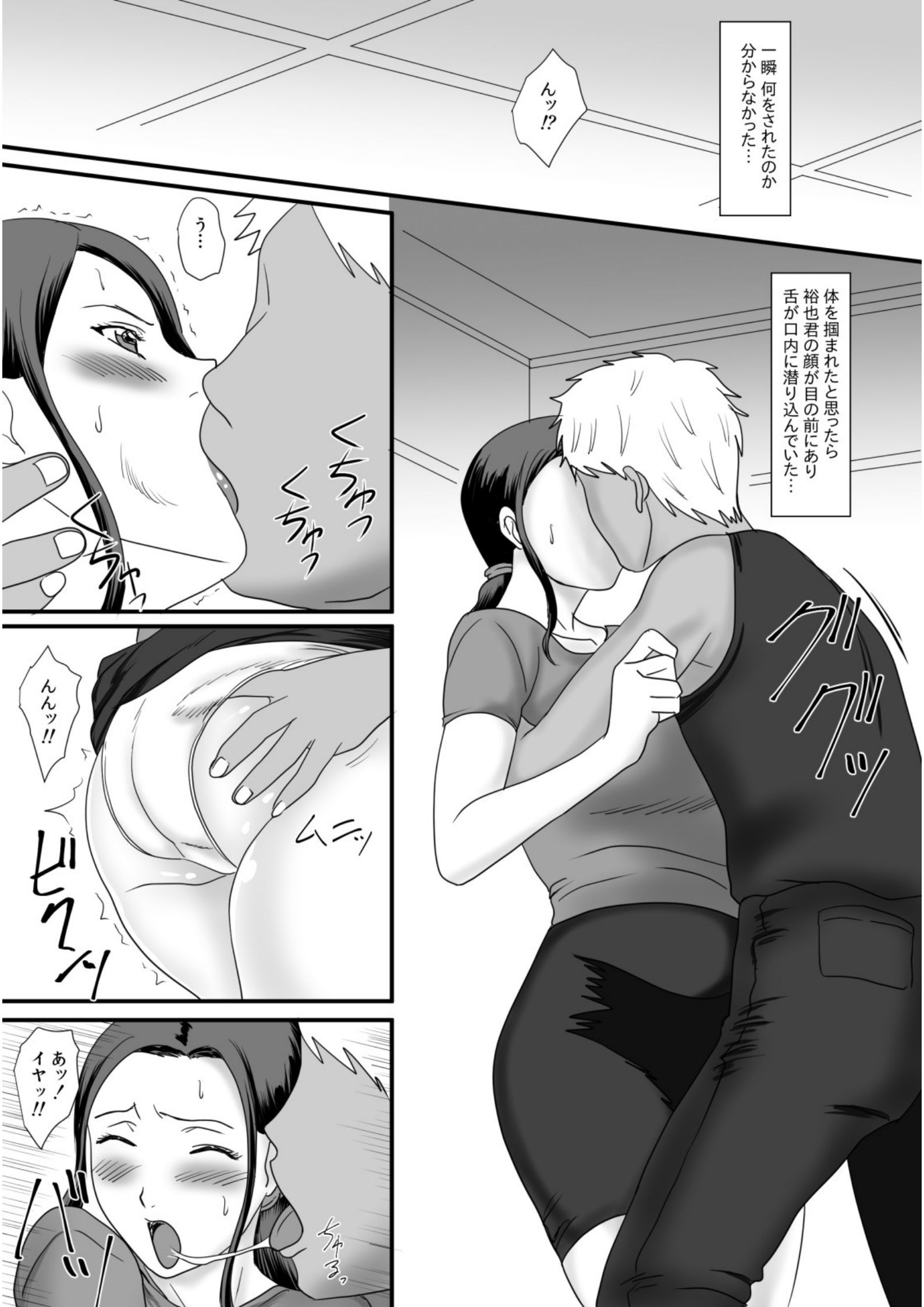

もし彼が私と歳の近い男性だったら
密室で二人きりになるのを避けるために
断っていただろう…
しかし彼は息子と同じ年齢…
私にとって性の対象になどならない…
同様に彼のような若い子が
私のようなオバサンに
邪な感情を抱くはずがない…


そう勝手に
思い込んでいた…
それが間違いだった…


私は『女』だということを…
バサッ


たとえ親子ほど
年が離れていても
彼は『男』で…


男と女が密室で二人きりになることが
どんな結果を生むのかを…

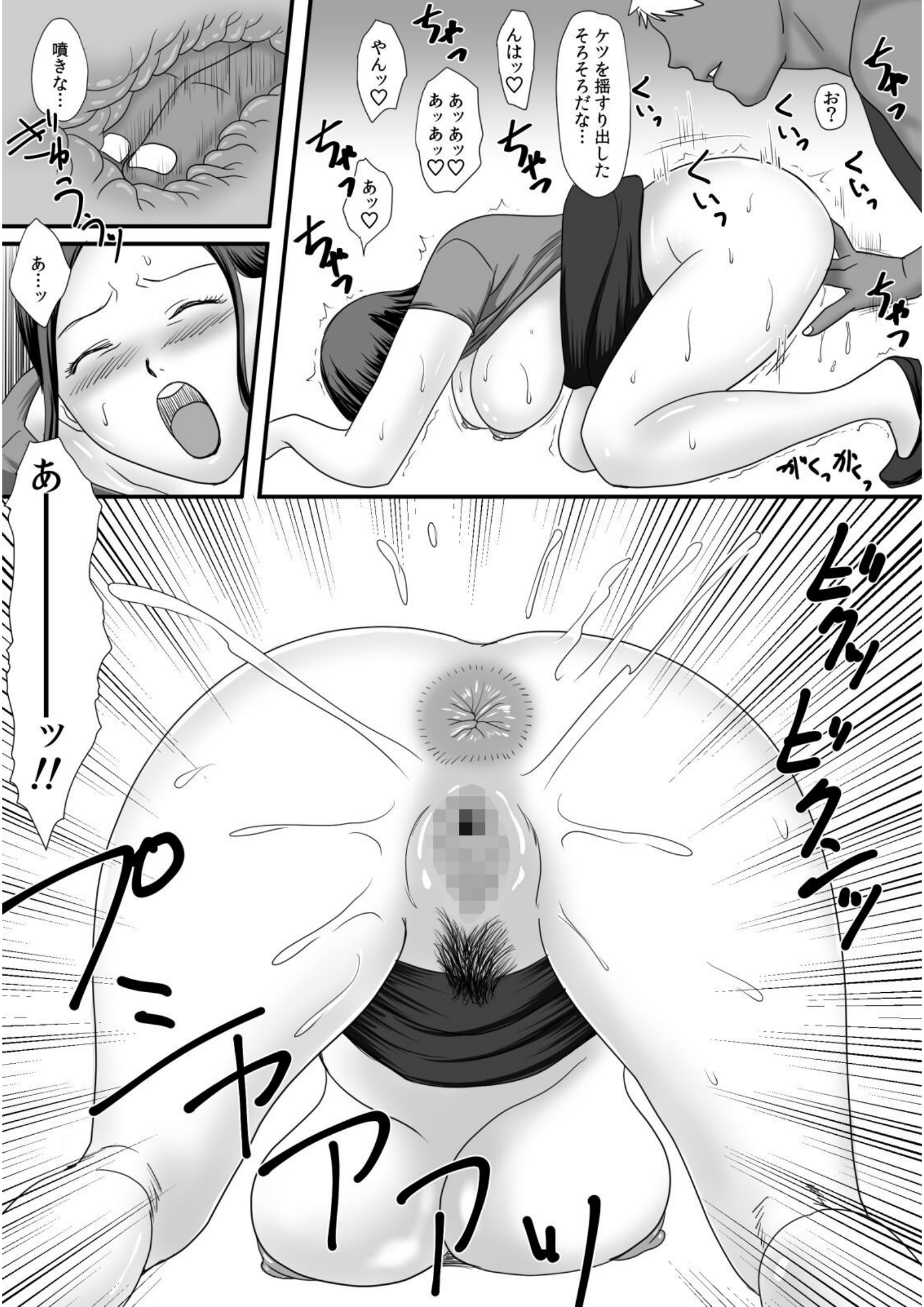

一瞬 何をされたのか
分からなかった…
んッ!?
体を掴まれたと思ったら
裕也君の顔が目の前にあり
舌が口内に潜り込んでいた…
う…
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
んんッ!!
ムニッ
ビクン!
あッ!
イヤッ!!
ちゅる。


やめなさいッ！
何考えてるのッ!!
年上の女性に叱られると
スゲー燃えるタチでさ
二人きりになるの
ずっと狙ってたんだよね
ヤラせてよ
きゃあッ!!!
へえ…
登喜子さんのここって
歳の割に色も形も
綺麗じゃん
イヤアッ!!
見ないでエッ!!
くぱぁ


何て力なの…
はねのけられない！
イヤッ!!
あ…ッ
あッ!!
やめてッ！
やめなさいってば!!
コラァッ!!
は…ッ
う…ッ！
くう…ッ
はあ…ッ
あッあッ！
は……んッ
あ…や…ッ


あッ!!
う…くッ!!
いやあっ!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
なにがイヤだよ
こんなにクリトリス
勃起させといてよ
あッ!
くりゅっ
はううッ!!
ヌプッ
指二本
簡単に入るくらい
ヌレヌレじゃん
ヌプッ
ヌプッ
いや…あッ!
抜い…てッ!!


うはっ♪
登喜子さんの肛門
ヒクヒク動いて
すげえエロいよ
やッ！
あッ♡
聞こえる？
このスケベな音…
もうすぐ潮噴くって音だよ
何人も噴かせてるから
分かるんだよね
あッあッ
あッあッ♡
ちゃっ
ビクッビクッ
ヒクッヒクッ
がクッ
登喜子さんも潮噴きたいんでしょ？
茶色いケツ穴が丸見えなのに
抵抗しないもんね♪
そんなこと…な…ッ
あッあッあッやッ♡
我慢することないから
思い切り噴いちゃえよ…
な？
いや…ッ
いやッ
あッ♡
がくっ
あッあッ♡
はんッ♡


ケツを揺すり出したそろそろだな…
お？
くいっ
くいっ
くいっ
ちゃっ
ちゃっ
ちゃっ
ちゃっ
んはッ♡
ちゃっ
あッあッ♡
あッあッ♡
やんッ♡
ちゃっ
あッ♡
ちゃっ
がくっがくっ
噴きな…
キュッ
あ…ッ
あ——ッ!!
ビクンビクンッ
プシャアアッ


ヒュッ
ヒュッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
さて…と
ボロン
それじゃ
頂きますか…
クニィ
クニィ
あ…
ーープププ
う…あ…ッ
やッ!!

ああーーッ!!

ご馳走様

さて…と勉強勉強

母さんも残業頑張ってるし

いい大学に入っていい会社に就職して母さんに楽させてあげないと…


ヌプッ
は…ッ
はッ
あッ
ヌプッ
ヌプッ
はあッ
ヌプッ
あ…んッ
ヌプッ
ヌプッ
あー
登喜子さんのおまんこ
すげえ気持ちイ
は…うッ！
あッ！
んうッ！
くはッ！
貴博が出てきた穴に
俺のチンポが入ってるの
変な気分だけど気持いいから
どうでもいいか
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ


ふッ
う…ッ
いや…
私　犯されてる…
職場で息子の友達に…
犬みたいな恰好で犯されてる…ッ
くうッ
んッ
ズプッ
ガクッ
タプッ
どう？
登喜子さん
俺のチンポ
気持イイ？
ヌプッ
…ッ！
君には失望したわ…
本当はマジメな
イイ子だと
思ってたのに…
こんなことして
タダで済むと
思わないことね…
ずいぶん手馴れてるみたいだけど
私は泣き寝入りするような
女じゃないから…ッ


ヘッ
ケツの穴丸見えの
みっともない格好で
言っても迫力ねえよ
いやあッ!!
ビクッ
ムニィッ
そんなとこ
広げて見ないでよッ!!
ビクッ
変態ッ!!
ひくっ
ひくっ

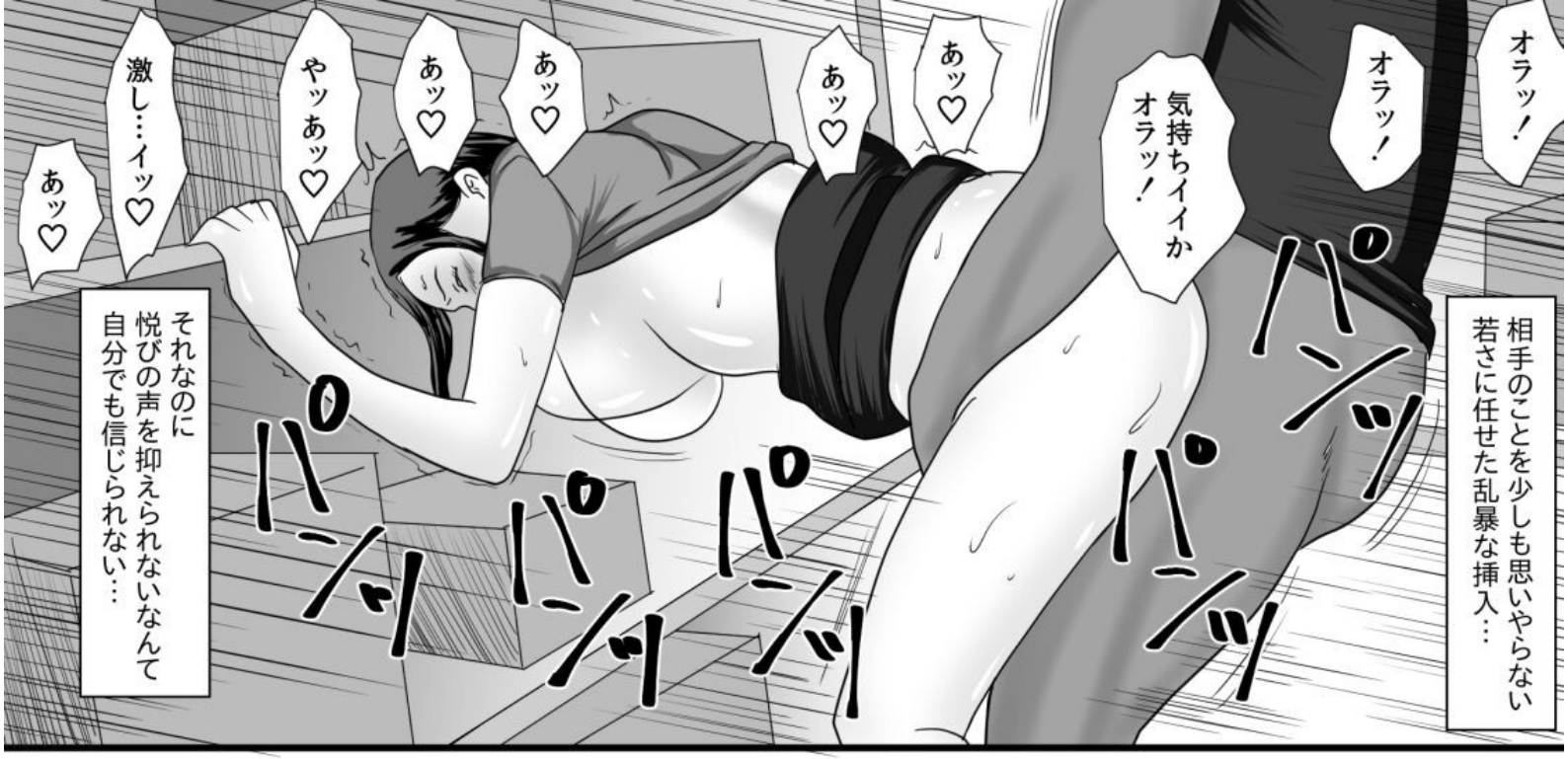

そんな深刻に考えずに
久しぶりのセックスを
楽しめばいいんだよ
ヌプッ
ヌプッ
ふッ
うッ
登喜子さんって堅物だから
旦那さんが亡くなってから
ずっとご無沙汰だったんでしょ?
んうッ
ヌプッ
タプン

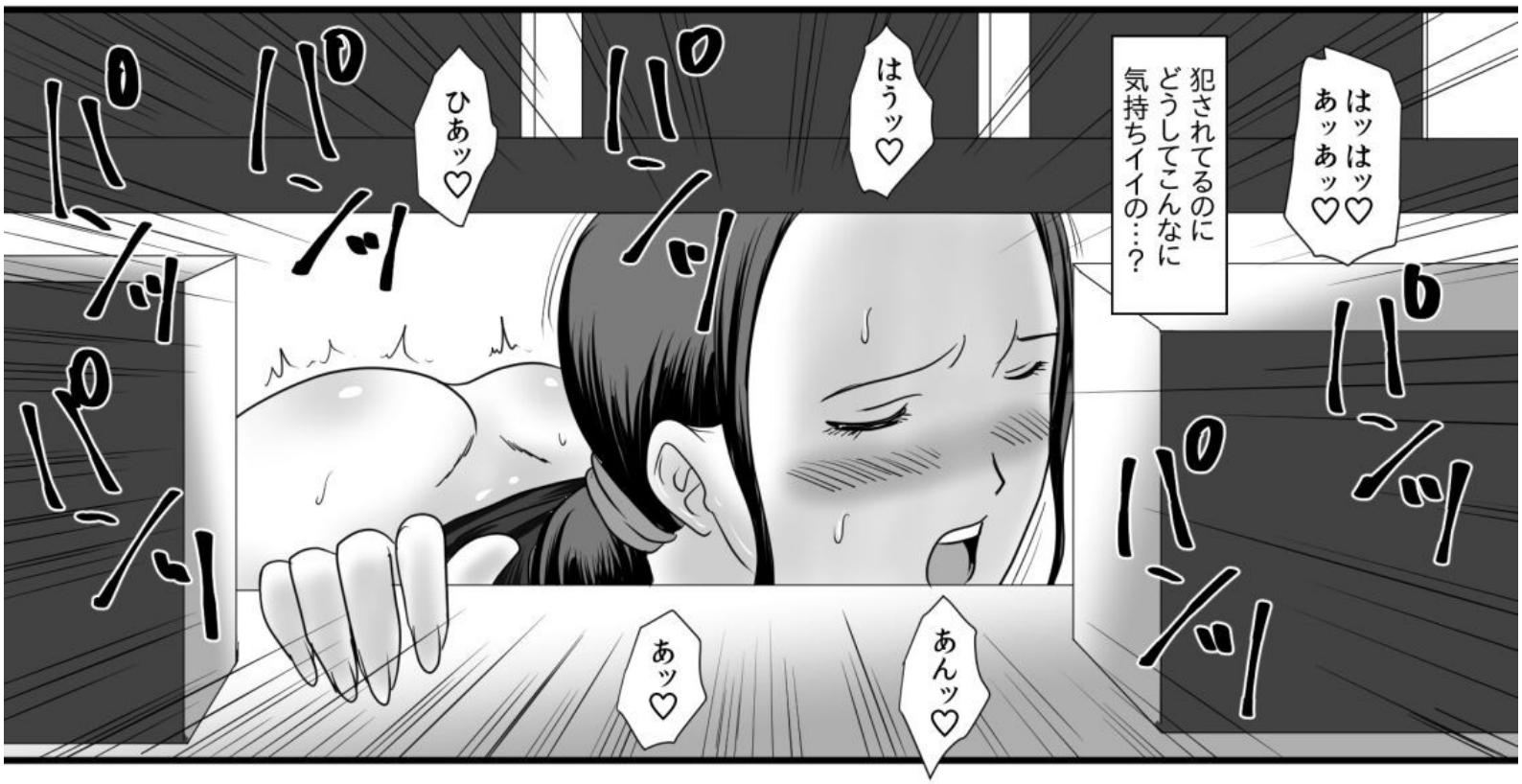

悔しいけど
この子のホントに
大きい…
俺 けっこう
自信あるんだよね
素直になれば
奥までハマってる
コレで気持ち良く
してやるからさ…
ぐっ
ぐっ
ぐっ
このままじゃ
私…
んッ
ふ…うッ

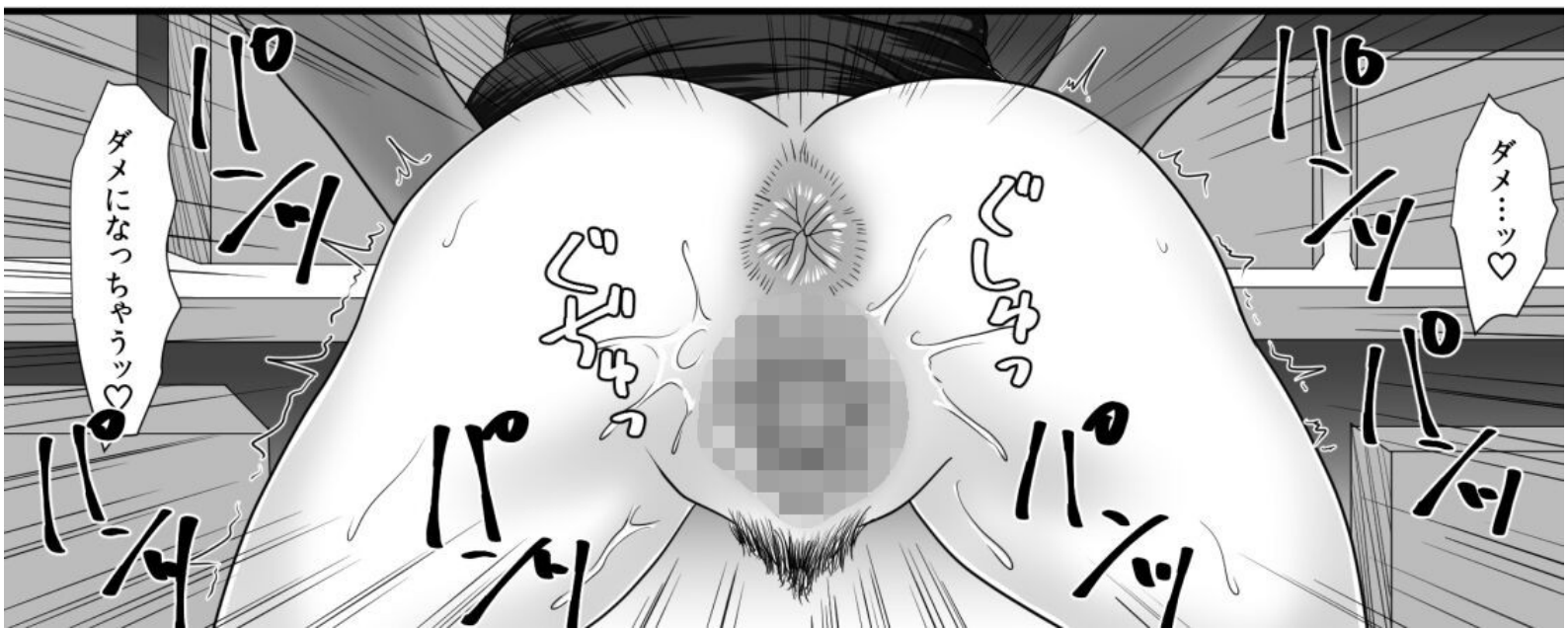

ね…ねえ?
今すぐやめれば
赦してあげるから…
は…早く
抜きなさい…!
潮まで噴いといて
気取ってんじゃねえよ
ホントは
おまんこ気持ち良くて
たまらないんだろ…オラッ
ズンッ
あッあッ♡
あッあッ♡
イヤッ♡
ダメッ♡
ズンッ
奥を突き上げないでッ♡
ズンッ
ズンッ


あッあッ
はあッ
あ…んッ
ニチッ
グチュッ
ヌチュッ
グチュッ
あふッ
んうッ
ズリュッ
ズリュッ
はあッ
はッ
あッあッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
やめ…ッ
もうやめ…てッ
あッ♡
パチュッ
パチュッ
パチュッ
お尻に腰を打ち付けられるたびに
室内に響き渡る
濡れた粘膜が擦れ合う卑猥な音…
それが羞恥心を煽り
さらに潤いを増してしまう…


あッ♡
はあッ♡
あッ♡
はあ…んッ♡
あッ♡
パチュン
パチュン
パチュン
パチュン
パチュン
ガクッ
ガクッ
ポタ
ポタ
あッ♡
あッ♡
あ…あ…
ヌルルッ
だいぶ
ほぐれてきたね
それじゃ
そろそろ
本腰入れてやる…よっとッ!!
ああッ!!
パンッ
ヌプッ
ヌルン


相手のことを少しも思いやらない若さに任せた乱暴な挿入…
オラッ！
オラッ！
気持ちイイかオラッ！
あッ♡
あッ♡
あッ♡
あッ♡
やッあッ♡
激し…イッ♡
あッ♡
それなのに悦びの声を抑えられないなんて自分でも信じられない…
パン
パン
パン
パン
パン


はッはッ♡あッあッ♡
犯されてるのにどうしてこんなに気持ちイイの…？
はうッ♡
ひあッ♡
あんッ♡
あッ♡
パン
パン
パン
パン
パン


ダメ…ッ♡
ダメになっちゃうッ♡
ぐしゅっ
ぐちゅっ
パン
パン
パン

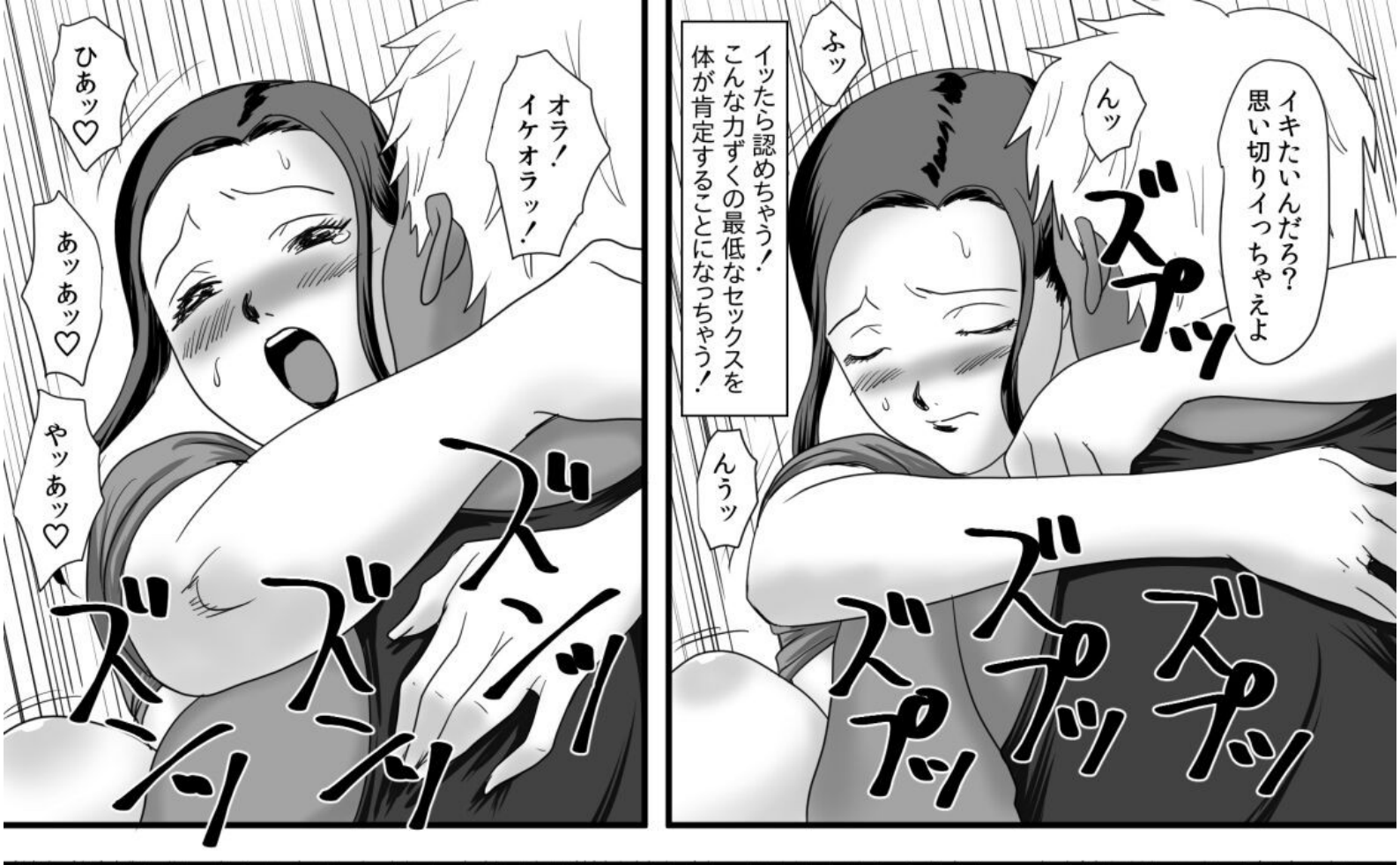

ひあッ♡
あウンッ♡
ブルンッ
ブルンッ
はッ♡
あッ♡
あイッ♡
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ああンッ♡
ギュッ
あッ！
痛…ッ!!
ずくっ
ずくっ
やッ♡
ダメ…
イキそう…
あッあッ♡
どうしよう…
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ


もうダメッ!!
イッちゃう…ッ!!
イクイクッ♡
イクイクッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
がくっ
がくっ
んんうッ♡
ブルルッ
おっと…
チュポンッ
ビクンッ
ああッ!!


え…
どうして…？
ハァ
ビクッ
ビクッ
ブルッ
登喜子さんさあ…
ハァ
ブルルッ
もじもじ
今 イこうと してたでしょ？
ギクッ
あ…
図星？
ち…違ッ!!
はい 足上げて～
ぐいっ
あッ
私 イキそうに なってなんか…ッ!!
ヌヌニ
ブルルッ
ズプンッ
おうふッ!!


あッあッあッ!!
ズリッズリッ
ヌリッ
いや…ああッ!!
やっぱり女を征服する時はイキ顔見ながらじゃないとね
ズンッ
ズンッ
誰がケダモノのセックスでイクもんですかッ!!
ズンッ
もうすぐイキそうなのはまんこ肉の動きでバレバレなんだからさ…
ズンッ
う…くうッ!
あんッ♡
やッ♡
ひあぁッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
素直に溺れなよ…

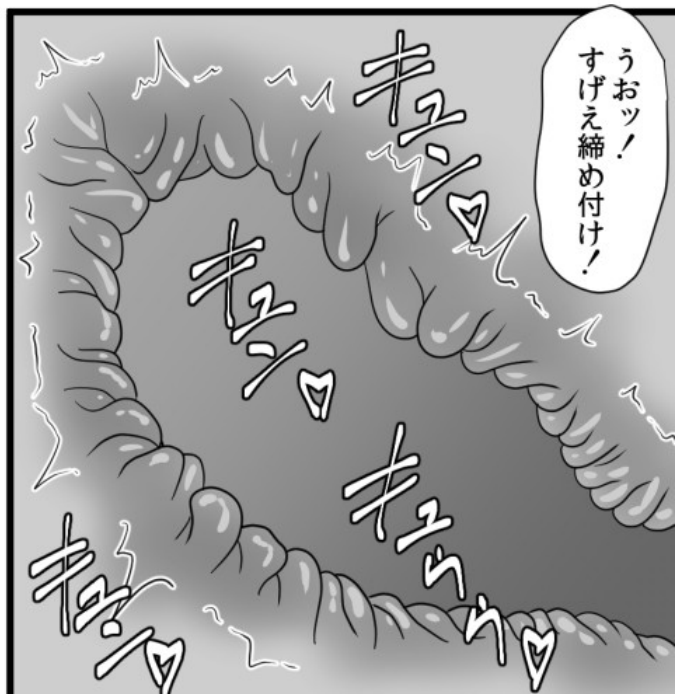

あッ
はあッ
ズプッ
ズプッ
はあぁ…ッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
あ…ッ
イヤ…ッ
ギュッ
屈しないと強がってみても
心を裏切った体は裕也君に
しがみついたまま好き勝手な
挿入を受け入れてしまう…
こんな恥ずかしい体位…
夫にもされたことないのに…
あッあ…ッ♡
あんッ♡
あッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
は…おッ♡
おうッ♡
おふッ♡
ヒクッ
ヒクッ
グチュッ
グチュッ


イキたいんだろ？
思い切りイっちゃえよ
ふッ
んッ
ズプッ
イッたら認めちゃう！
こんな力ずくの最低なセックスを
体が肯定することになっちゃう！
んうッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ひあッ♡
オラ！
イケオラッ！
あッあッ♡
やッあッ♡
ズンッ
ズンッ
ズンッ


あッ♡
あッ♡
ダメッ♡
もうダメッ♡
あッ♡
あッ♡
イクッ♡
イッちゃうッ♡
ガクッ
ガクッ
グチュッ
グチュッ
ゴプッ
ゴリッ
ゴリッ
ゴリッ


ビクンッ
あはあああああッ♡
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ


ビクッ
あッ♡
ビクッ
ハアン♡
登喜子さんが本気のアクメキメてるのよく分かるよ
あ…ッ♡
ブルルッ


うおッ！すげえ締め付け！
キュン♡
キュン♡
キュン♡
キュン♡


イッてしまった…
あの人を亡くしてからもう二度と…そう思ってたのにこんな形で女の悦びを味わうことになるなんて…
ビクッ
ビクッ
ブルッ
ビクン
はあうッ♡
ズプーン
ズブッ
んうッ♡
ズブッ
あッ♡
ズブン
あふッ♡


友達の母親を
女にする征服感
たまんねえ
自分の母親が友達に
おまんこ突かれて女の顔で
気持ちよがってるなんて
知ったら貴博は何て言うかな?
ズブッ
ガクッ
いやッあッ♡
そんなこと
言わないでッ♡
子宮が精液を
欲しがって
降りてきてるよ
欲しがって
なんか…ッ♡
あッ♡
はあッ♡


このまま膣内に出してもいいよね？
ダメダメメッ!!それだけは絶対にダメッ!!
ズチュン
ズプッ
ヌプッ
ガクガクッ
じゃあ俺の精液飲んでよ
え…そんな…ッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
あんッ!?だったらこのまま下の口に飲ませるぞオラッ!!
あッあッ!!
あひッ!!
ひあぁッ!!
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ

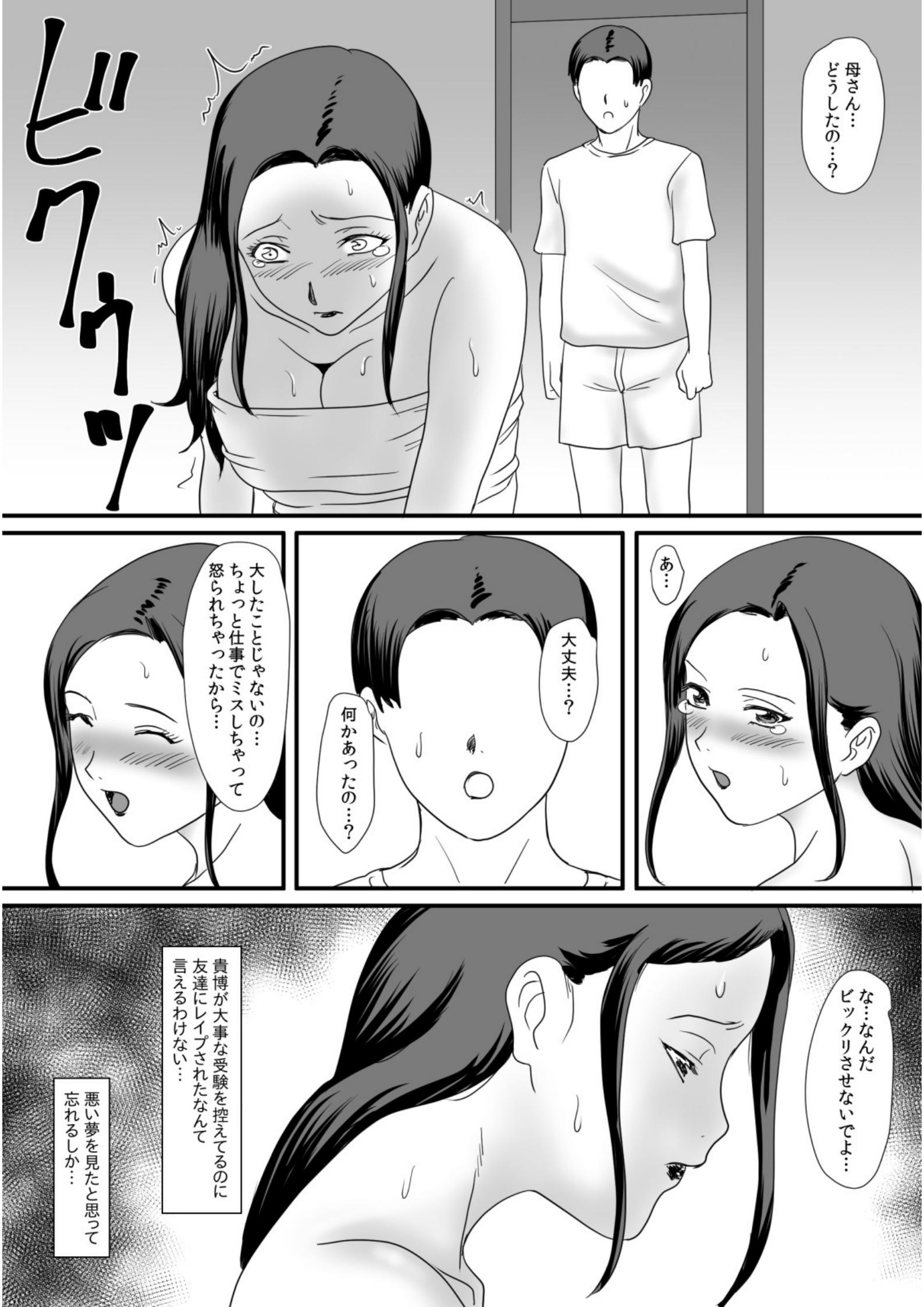

あ…うッ!
飲む…ッ!!
ズンッ
ズンッ
飲むから膣内には出さないでエッ!!
ズンッ
ズンッ
ちゅぽんっ
あひッ!!
ビクンッ
たっぷり飲ませてやる
ぐいっ
口開けろよオラッ
あ…やぁッ!!
んんッ!!
ぐぽっ


んぅッ!!
ズプーン
んふッ!!
おっぷッ!!
グポッ
グポッ
ブチュッ
ブチュッ
ブチュッ
ビクッ
ビクッ
んッんッ
んッんッ!!
グポッ
んん――ッ!!
グチャッ
グチャッ
グポッ
グポッ
グチャッ
ガクッ
ガクッ
出すぞッ！
全部飲めよッ!!
ビクッ
ビクッ
おぼッ!!
ヒュルルル
ヒュルルル


ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ
おご…ッ!!
おッ!!
ゴキュッ
ゴキュッ
…ッ!!
ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ
ブルルッ
んんうッ♡
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ニャアッ


ああ
気持ち良かった♪
…って
あ〜あ〜
おもらししちゃって…
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
チョロロロロ…
ちゃんと掃除しといてよ
俺もう帰るから
お疲れー
ビクッ
ビクッ


は…ッ
あ…
いつの間にか寝てた…
おしっこ漏れそ…
あ…
母さん帰って来てる
う…
ひっく…
グス…ッ


ビクッ
母さん…
どうしたの…？
あ…
大丈夫…？
何かあったの…？
大したことじゃないの…
ちょっと仕事でミスしちゃって
怒られちゃったから…
な…なんだ
ビックリさせないでよ…
貴博が大事な受験を控えてるのに
友達にレイプされたなんて
言えるわけない…
悪い夢を見たと思って
忘れるしか…

え？
裕也君が
辞めた？

そうなんだよ…
いつまでも
仕事に来ないから
電話かけたら
もう辞めるって…

ああいうのは
ホント困るよ…

そうですか…

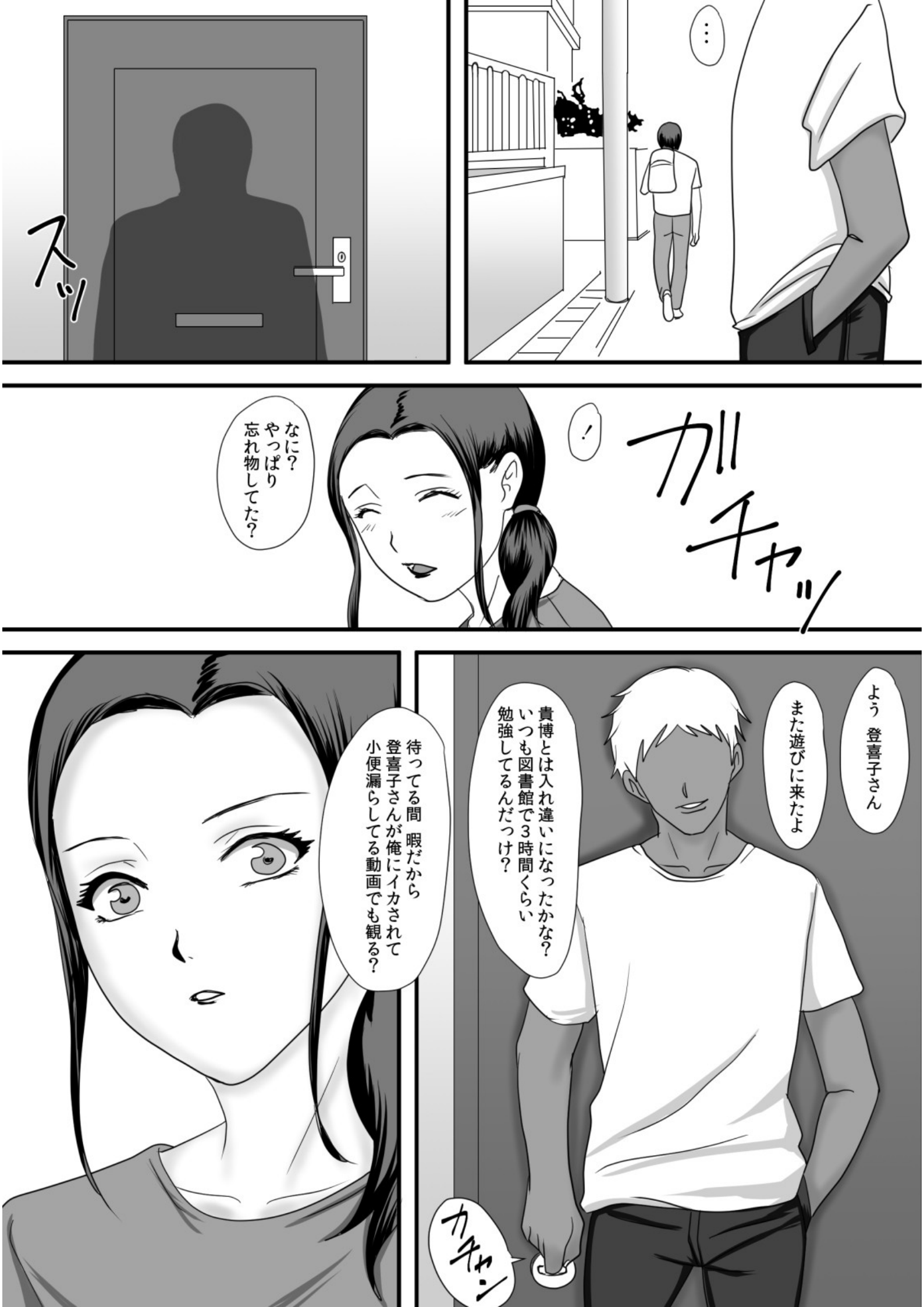
警察沙汰にしない代わりに
頬の一つでも引っ叩いてやろうと
思ってたのに逃げるなんて…

悔しい…

じゃあ
行ってくるから

気を付けてね
忘れ物とかない？

うん大丈夫
いってきます


スッ
…
ガチャッ
！
なに？
やっぱり
忘れ物してた？
よぅ 登喜子さん
また遊びに来たよ
貴博とは入れ違いになったかな？
いつも図書館で3時間くらい
勉強してるんだっけ？
カチャン
待ってる間 暇だから
登喜子さんが俺にイカされて
小便漏らしてる動画でも観る？


あッあッ!!
あッ!!
やッ!!
ガタッ
ガタッ
ガタッ
ガタッ
ガタッ
あッあッあッ!!
は…うッ!!
やめ…ッ!!
ああッ!!
ガクガク
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ぐちゅっ
ぶちゅっ
がくっ
がくっ
がくっ
あ…くッ!!
あうッ!!


嫌がってる割には簡単に挿入ったね
この間のセックスで俺のチンコの形に馴染んでたんだな
気持ちイイでしょ？
はうッ！
あぐッ！
気持ち良くなんかないわよッ!!
さっさと抜きなさいッ!!
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ガタッ
ガタッ
ヌルルル…
へぇ…そうかよ
や…やめッ!!
くぱっ
ブチュンッ
オラッ!!
あはあッ♡
ヒャンっ


ズプッ
ズプッ
ズプッ
あ――ッ♡
あッあッ♡
あッやッ♡
ブチュッ
ブチュッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
はッはッあッ♡
がくがく
くあ…ッ♡
はあッ♡


あ…くッ
よくもこんな…ッ
一度だけなら過ちとして大目に見てあげてたけどもう絶対に許さないから…ッ
覚悟してなさい…ッ
へえ…そうかよ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
きゃッ!?
あッ!!
ガバッ
あ…ッ
あッ
何…ッ!?


あッ♡
んんッ♡
ヌプッ
ヌプッ
はッ
はッ
あッ♡
ふッ♡
うんッ♡
ポタッ
ポタッ
ヌチッ
ヌチッ
ガチャッ
えッ!?
イヤッ！
うそッ!?
待ってッ!!
ダメッ!!
ここは…ッ!!


ドサッ
ああッ!!
ギシッ
ギシッ
いやッ!
いやあッ!!
ギシッギシッ
貴博のベッドで
抱かないでぇッ!!
するなら
私の部屋で…ッ!!
ギシッ


はッあッ!!
お…うッ!!
おふッ!!
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ビクッ
ビクッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
いや…あッ!
もうやめて…ッ!
こんなオバサンを抱いて
何が楽しいのよ…ッ!?
さあね…
惚れてるから
かな…
え…?
んんッ!!
ブチュッ


パチン
パチン
パチン
この卑劣な行為に愛があるだなんて…
ん…ッ
くちゃくちゃ
ふ…ッ
私を翻弄するための陰湿な嘘に決まってる…


それなのに裕也君の言葉を…気持ちを信じたい自分がいた…
ちゅるっ
ちゅぱっ
ン…ふ…ッ


くちゃっ
くちゃっ
くちゃっ
ふ…ッ！
んうッ！


だめ…挿入されながらのキス…
弱い…
うん…♡
ん…♡
ぴちゃっ
ぴちゃっ
くにに

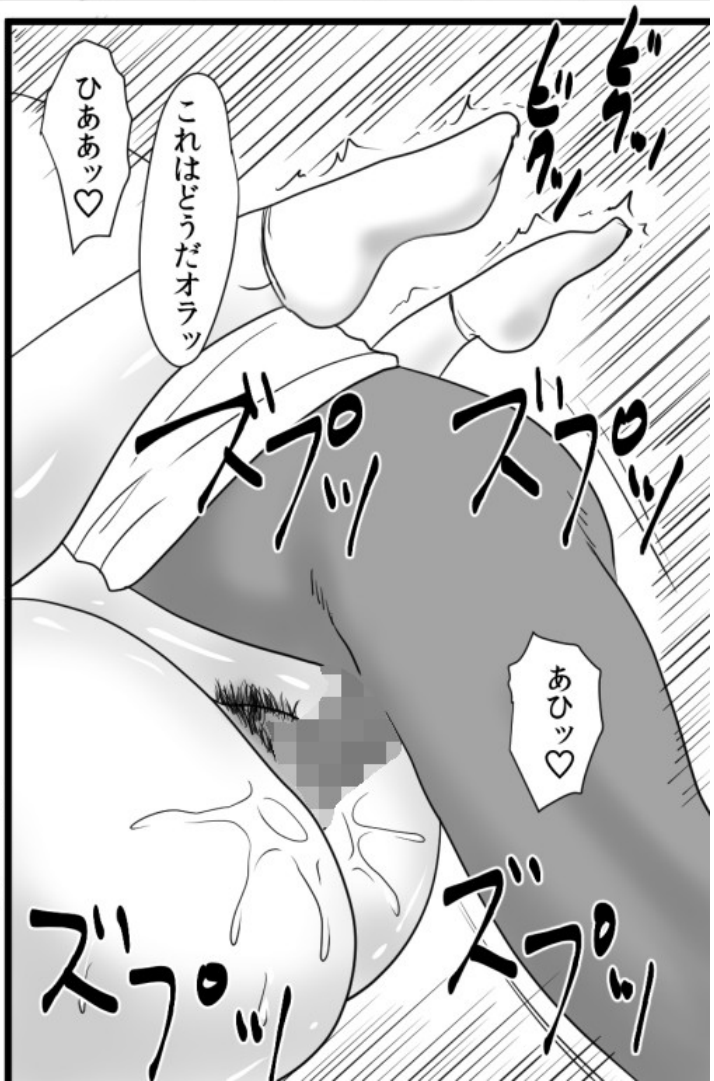

はッはッ♡
ズリュッ
あッはッ♡
ズリュッ
ズリュッ
ズリュッ


あうんッ♡
ズプッ
あんッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
はあんッ♡
さっきまで力ずくのレイプだったのに
結局 私…裕也君の手管に堕ちて
膣奥まで潜り込んでくるペニスに
甘い声を上げちゃってる…


なあ…登喜子…
せっかく愛し合ってんだから
どういう風にオマンコ
突いて欲しいか
正直に言ってみ?
や…ッ♡
そんな恥ずかしいこと
言えないッ♡
ギシッ
ギシッ
ギシッ


今さら小娘みたいなこと言ってんじゃねえよオラッ
ここだろ？ここがイイんだろ？
ぐりっぐりっぐりっ
あッあッ♡
あ――ッ♡
ダメッ♡それダメェッ♡
ビクンッビクンッ
息子の友人に呼び捨てにされながら無遠慮に心と体をかき回される屈辱…こんなこと絶対に許しちゃいけないのに…


大人の態度を取り繕う余裕など私にはもうなかった…
あッ♡
はんッ♡
たぷっ
たぷっ
たぷっ
たぷっ
あッあッ♡


これはどうだオラッ
ひあぁッ♡
ビクンビクン
ズプッ
ズプッ
あひッ♡
ズプッ
ズプッ


ああヤベ…ッ
もうイキそ…
このまま射精すぞ
登喜子ッ!!
えッ!?
待ってダメッ!!
ダメダメッ!!
膣内はダメッ!!
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
赤ちゃんできちゃうッ!!
そんなの
堕ろせばいいって
そんな…ッ
イクぞ
登喜子ッ!!
そ…とッ!
外にイッ!!
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
貴博…
お母さんを赦して…
お母さん あなたのベッドで
イッちゃう…
あイ…くッ♡
イヤッイクッ♡
ギッ
ギッ


ビュルルルッ
ビュルルルッ
熱…うッ♡
裕也君に種付けされちゃうッ!!
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
ああ――ッ♡


もっとケツ上げろよ
くいっ
一度膣内射精と同時に絶頂を極めてしまったらもう拒めない…
こ…こう…？
心も体も征服された私は裕也君に命じられるがまま挿入しやすいようにお尻を高く突き出していた…
はあんッ♡
ズニュニュニュ
ウウウウ
ビクッビクッ
やッ♡
ああッ♡
プッププッ
ヌプッヌプッ
ズリュッズリュッ


四つん這いにさせておいてお尻の穴に指を入れながら激しくペニスを打ち込む…
あくッ♡
やはあッ♡
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
それはセックスというよりもむしろ『しつけ』と形容するのが正しかった…
どうすれば女を屈服させられるかを熟知したやり口にまんまとハマってしまった私は…
ん…ッ♡
ふ…ッ♡
クチュ
クチュ
ギシッ
ギシッ
自分から舌を絡ませにいき裕也君に服従を示した…
んうッ♡
チュプッ
チュルッ
はあ…ッ♡


ドサッ
グプッ
あうッ♡
ギッ
イッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
あッあッ♡
あッあッ♡
やあッ♡
これスゴイッ♡
奥まで挿入(はい)ってきちゃってるッ♡
ぶちゅっ
ぶちゅっ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
あッあッ♡
あひッ♡
は…あ…♡

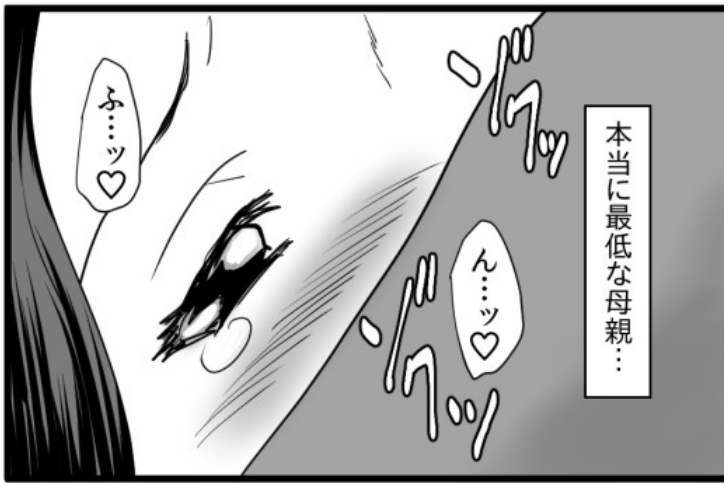

はッはッ♡
あッはッ♡
すごい…
巧みに体位を変えながら絶えず
私の性感帯を的確に突いてくる…
そこはダメッ♡
そこは…ッ♡
あッ♡
ひあッ♡
あッあッ♡
やんッ♡
この歳になってこれほどの快感を
こんな若い子に教え込まれるなんて
思ってもみなかった…

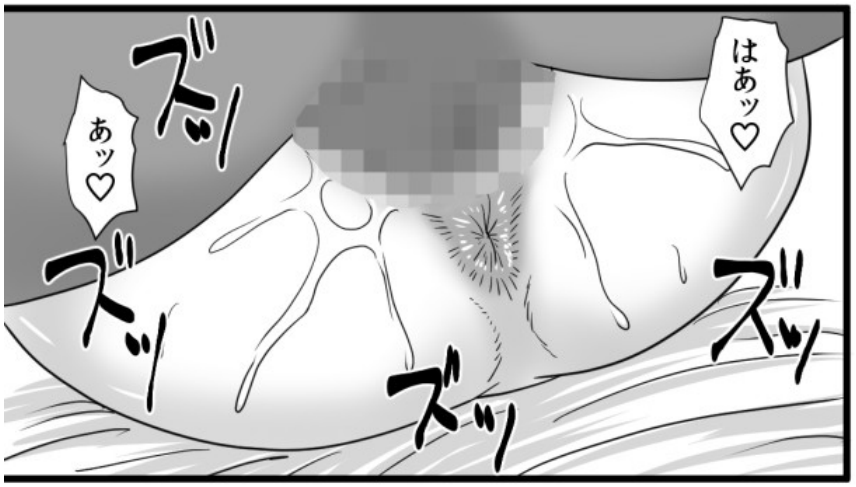

はあ――ッ♡
あッあッあッあッ♡
ダメッ♡
もうダメッ♡
私こんなの初めてッ♡
裕也君ッ♡
裕也くぅんッ♡
本当に貴博と同じ年なのかと
思うほどの経験豊富さと逞しさに…


私は息子の友人の名を
甘えた声で呼びながら
二度目の絶頂を迎えた…
あはあああああッ♡


ん…ッ♡
ん…ッ♡
ん…ッ♡
ん…ッ♡
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ん…ふ…ッ♡
くちゅっ
くちゅっ
くちゃ
くちゃっ
あッ♡
んうッ♡
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
はあッ♡
あッ♡
あんッ♡
ギッ
ギッ
ギッ


こんなひっくり返ったカエルのような恰好で
裕也君を受け入れているのをあの子に見つかったら…
ん…ふッ♡
あ…ッ♡
あ…ッ♡
は…んッ♡
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
それを想像した途端に私は
信じられないほどの快感を覚え
あの子が帰ってくるギリギリの時間まで
ベッドのシーツにセックスのシミをつける…


本当に最低な母親…
ふ…ッ♡
ん…ッ♡
ズッ
ズッ

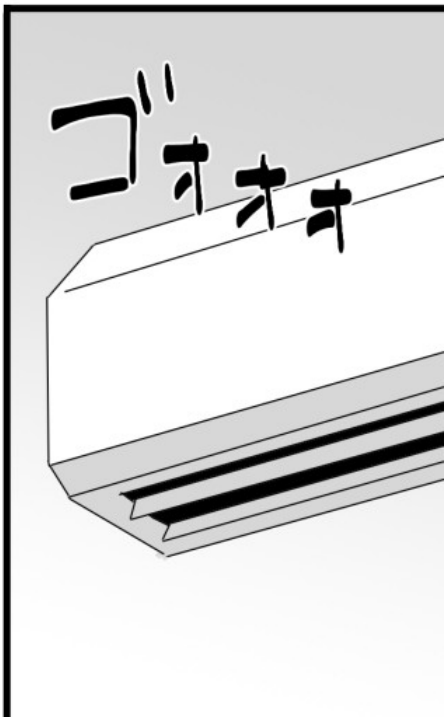

はあッ♡
あッ♡
ズッ
ズッ
ズッ


しかしそんな罪悪感も自己嫌悪も
裕也君が射精に向けてより強い
挿入を始めるとたちまち消し飛んだ…
あッあッ♡
あッあッ♡
あ――ッ♡
イクイクッ♡
イクイクッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ


妊娠の恐怖も忘れて裕也君の腰を両足で挟み込み自分から膣内射精(なかだし)を受け入れた…
イクぅッ♡
ビクン!
ビクン!
ビクン!
ビクン!
ビクン!
ビクン!


スぅぅぅ


シュボッ


ゴォォォ


フーッ
チュポッ
チュポッ
チュポッ
チュポッ
チュポッ
んッ
んッ
んッ
そろそろ射精すぞ
ちゃんと飲めよ
んッ
んッ
んッ
チュポッ
チュポッ
チュポッ
チュポッ
んうッ♡
ビュルルッ
ビュルルッ
ん…ッ♡
ん…ッ♡
ごくっ
ごくっ
トロォ…

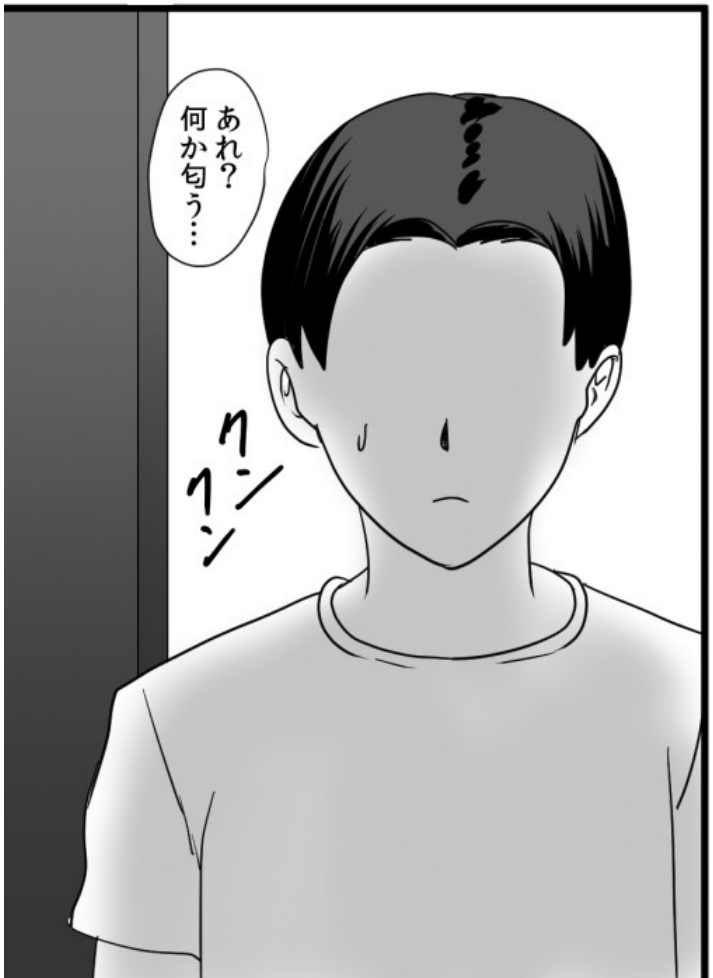

ただいま




母さん？


ヤアアアッ
シャワー浴びてるのか…


カチャ


あれ？
何か匂う…
クンクン

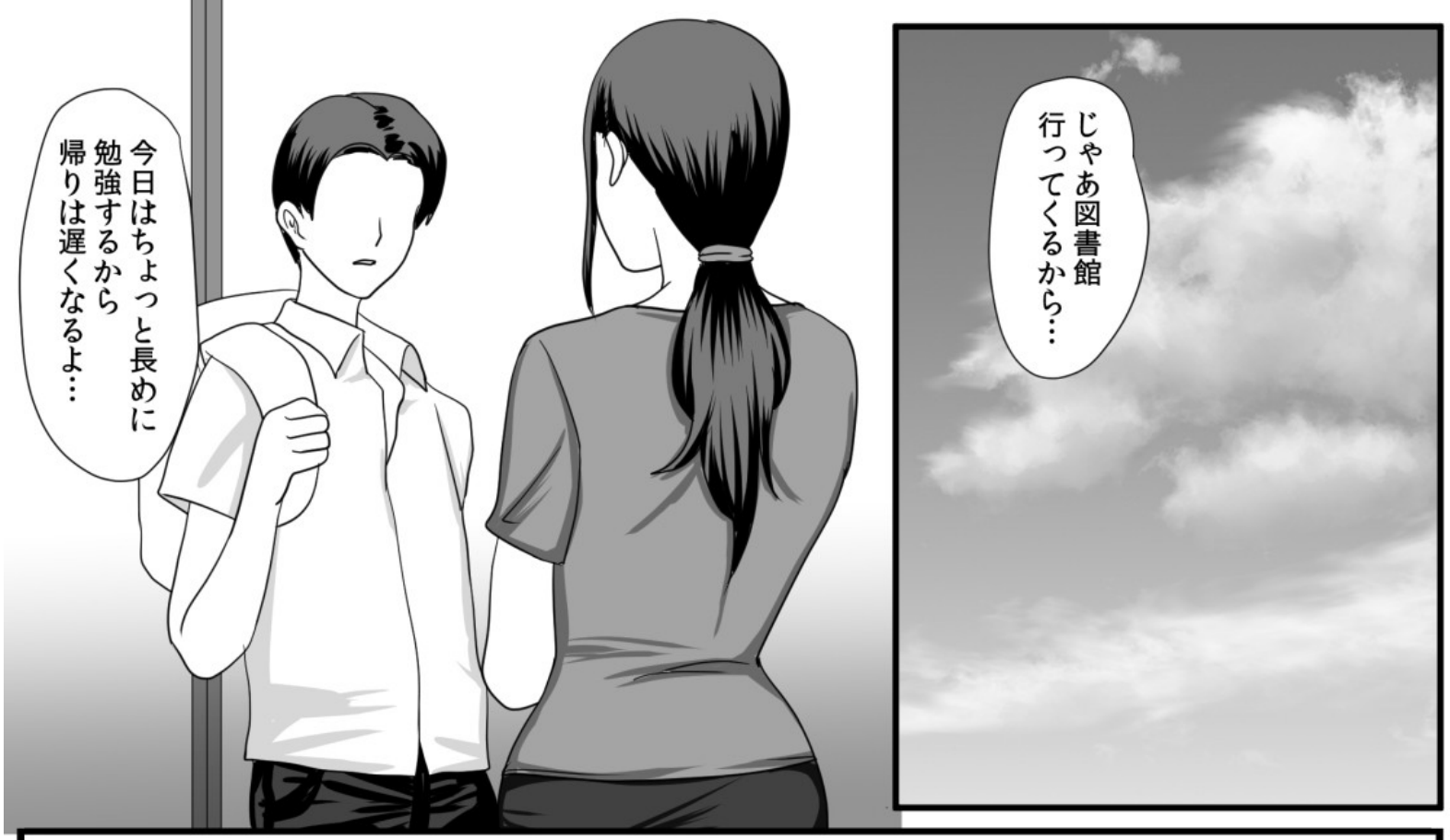

♫
♫
何？
母さん
あ…貴博？ お母さん
今日も残業になったから…

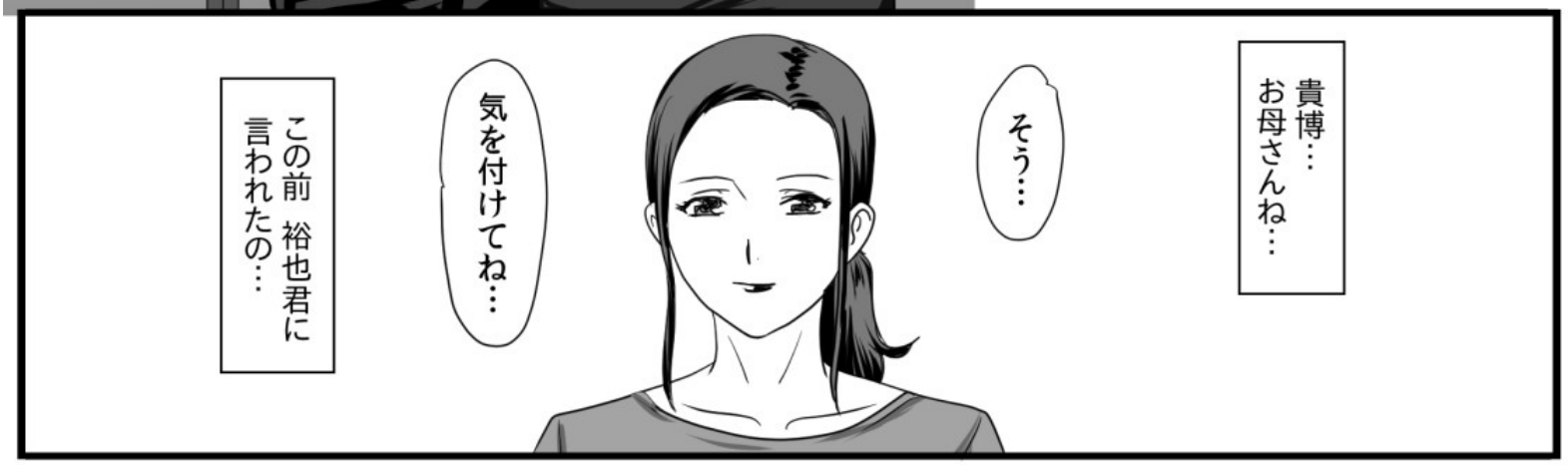

え？
また？
そう…
またなの
ごめんね…
帰るの遅くなるから
ご飯は適当に済ませといて…

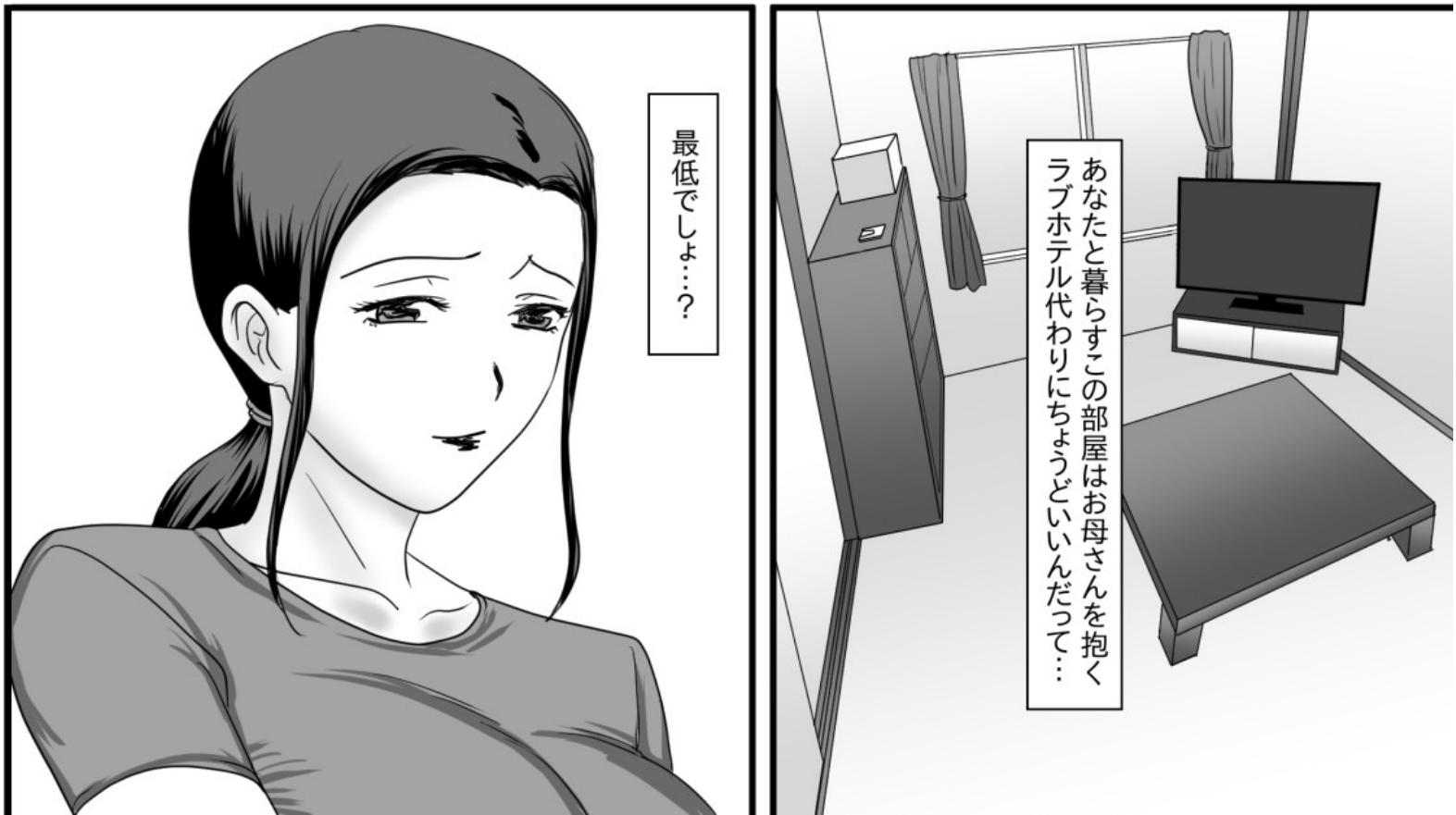

あッ！
ボロンッ
店長が呼んでるから
もう切るわね…
あ…
母さ…
パタッ

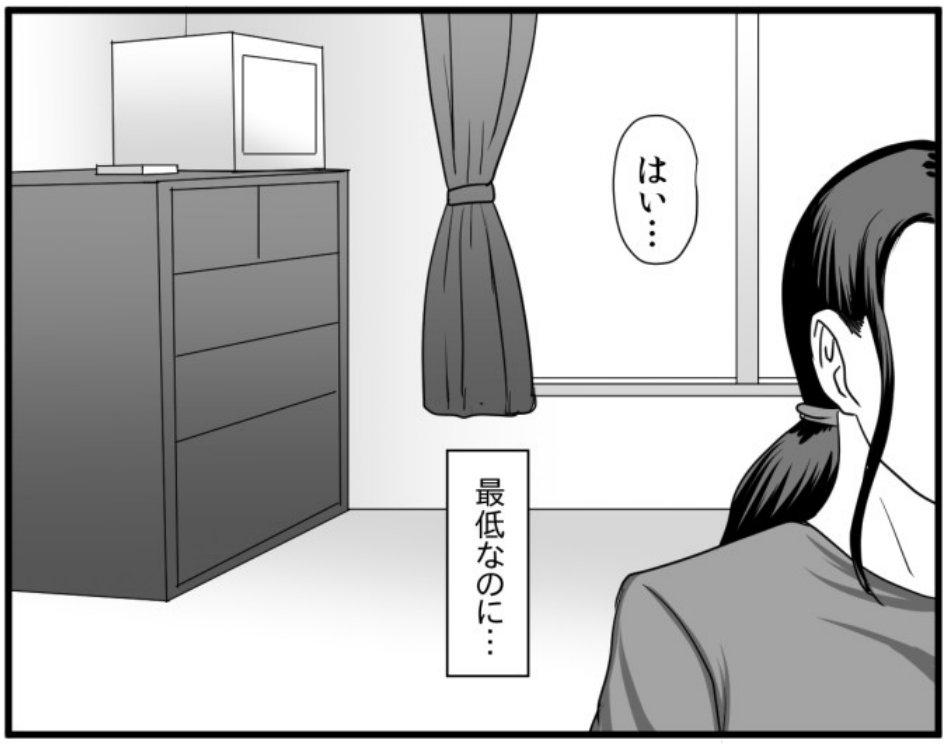

いつの間にか私は最愛の息子を
欺いて目の前に差し出された
裕也君のペニスを躊躇いなく
頬張る女になっていた…
チュポッ
チュポッ
チュポッ
んッ
んッ
んッ
プポッ
パプッ
ブプッ

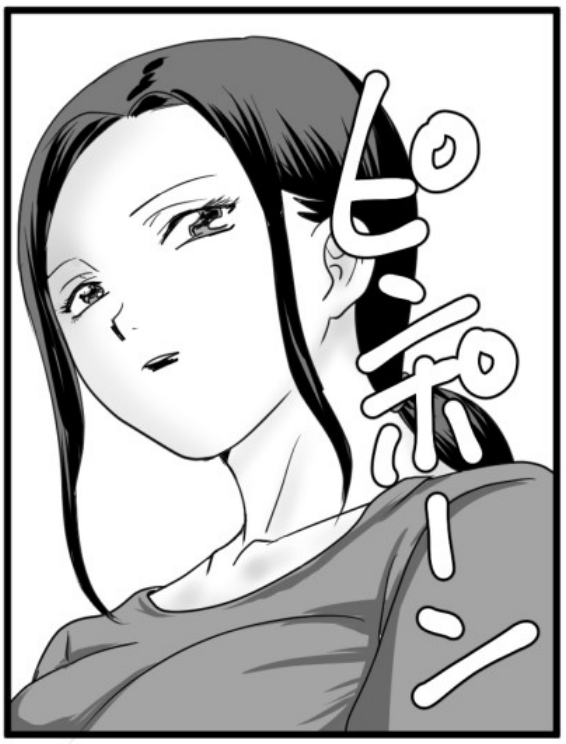

そして硬くなったペニスが
膣奥まで挿入るように
自分で両足を抱え込む女に…
ズプッ
ズプッ
ズプッ
はうッッ♡
あッ♡
あッ♡
あんッ♡
あッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ

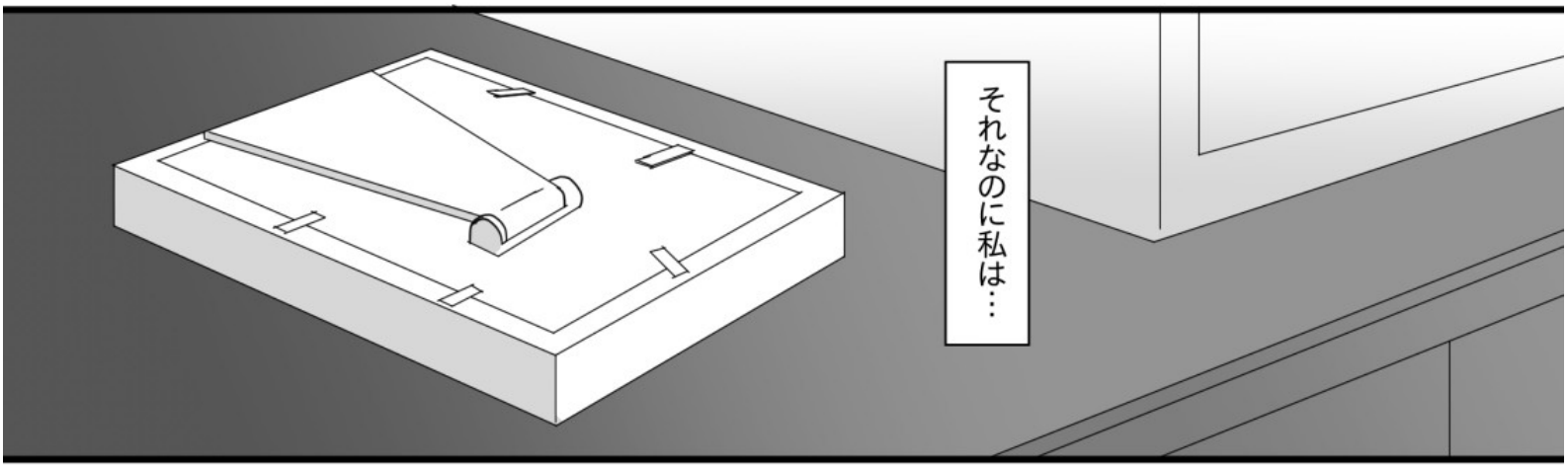

じゃあ図書館
行ってくるから…
今日はちょっと長めに
勉強するから
帰りは遅くなるよ…


貴博…
お母さんね…
そう…
気を付けてね…
この前 裕也君に
言われたの…

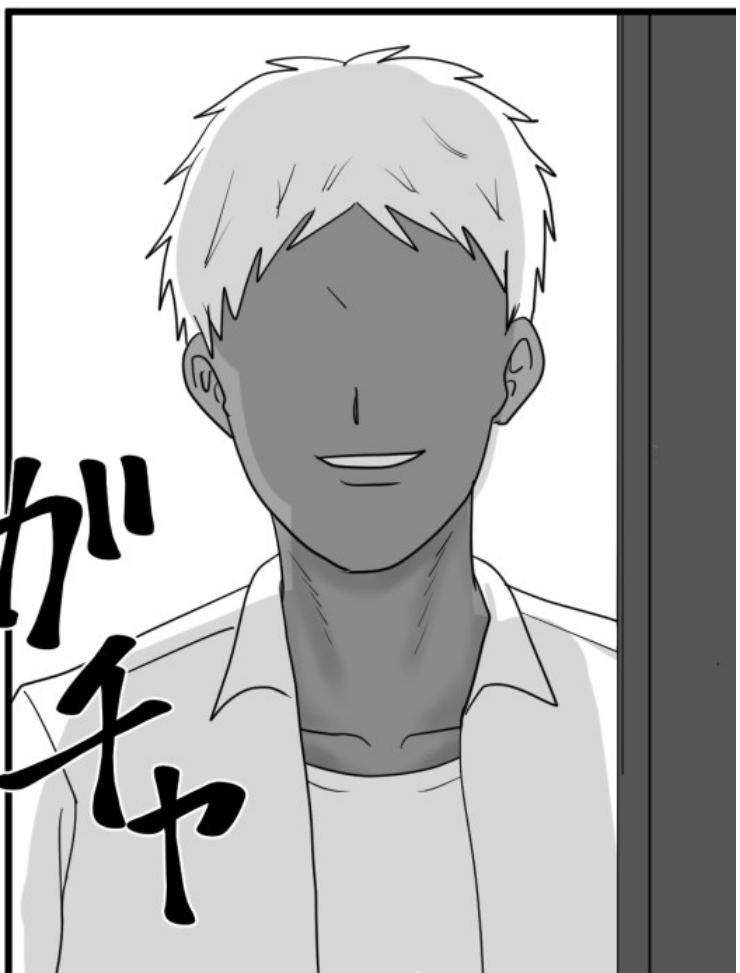

あなたと暮らすこの部屋はお母さんを抱く
ラブホテル代わりにちょうどいいんだって…
最低でしょ…？


はい…
最低なのに…


ピンポーン

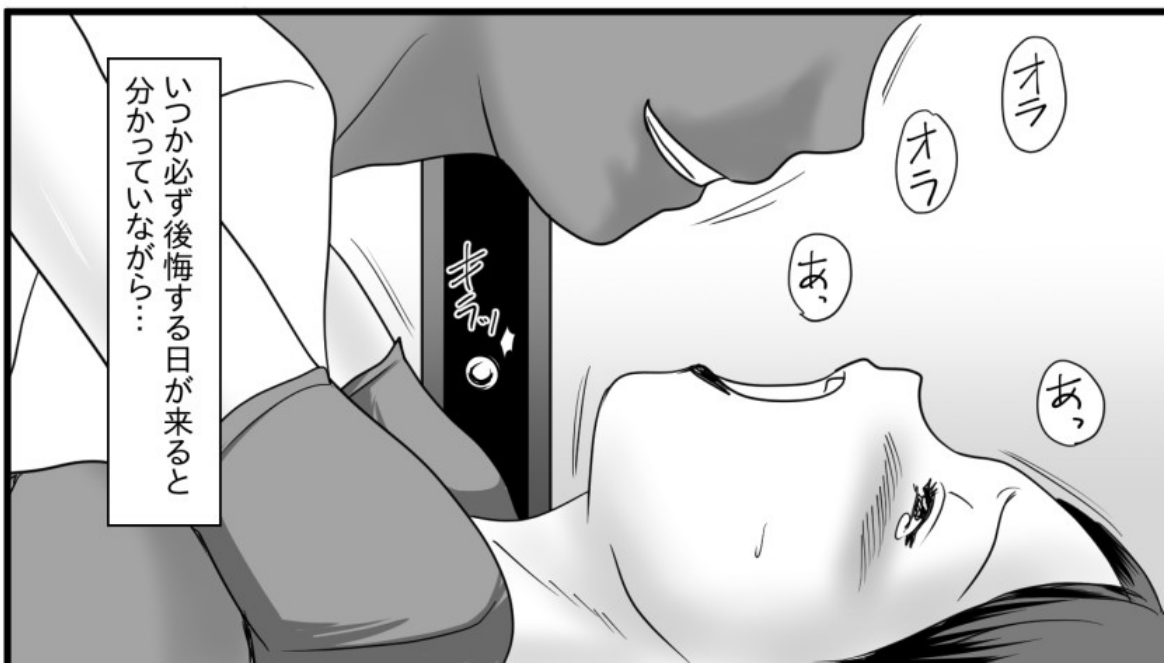

それなのに私は…


裕也君との逢瀬を
止められなかった…


ガチャ


それどころか…私の体を貪るために
あの子が出かけるのを見計らって訪れて来る
彼を待ち遠しいと思うまでになっていた…
それがどんな結果を招くのか…

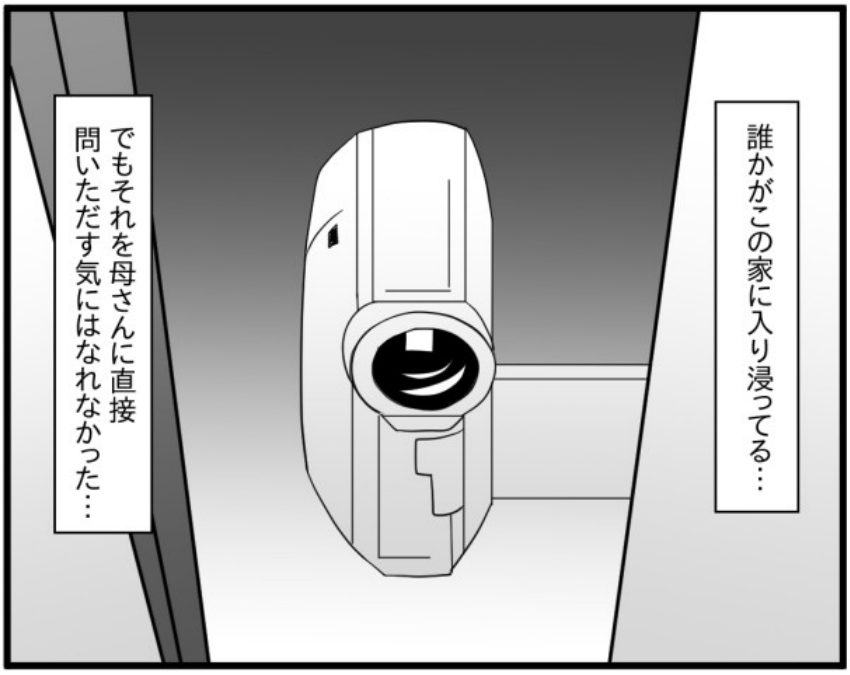

こぃ
イイイイイ


いつか必ず後悔する日が来ると
分かっていながら…
オラ
オラ
あ、
あっ
ギィ…


ただいま…


やっぱりシャワーを浴びてる…
僕が出かけた日は必ずそうだ…
母さんが泣いていたあの夜から
何かがおかしかった……
シャーーー


人手不足で仕事が忙しいからと
やたら残業で帰りが遅くなったり…
大嫌いだと言っていたタバコの
吸い殻が捨ててあったこともあった…


誰かがこの家に入り浸ってる…
でもそれを母さんに直接
問いただす気にはなれなかった…


それを聞いてしまったら
何かが終わってしまうような
気がしたからだ…
それでも確かめずには
いられなかった…


え…!?
貴博は帰りが遅くなるって?
ええ…
ならたっぷりできるな
相手がまさか裕也だなんて思ってもみなかった…
ん…♡
毛嫌いしてたはずなのに なんで…
ん…ふ…♡
んう…♡
クチュクチュ


まるで恋人同士がするようなキスを終えると
母さんはそうするのが当たり前のように
裕也の足元に跪いて咥え始めた…
チュポン
パプッ
ブプッ
タバコ吸ってた俺に
説教したおばさんが
今じゃ俺のチンコ
吸ってんだから
笑っちまうよな
はあ…
ピチャァ
いじわる言わないで…
こんな立派なペニスで征服されたら
どんな女だって服従しちゃうわよ…
母さん…?
あの母さんが
こんないやらしいことを
言うはずがない…ッ
ん…♡
チュッポ
チュポッ
きっと裕也に弱みか
何かを握られて…
ん…♡
クッポ
クッポ
チュッポ
ヌメ…
!!


よし…
芯が入ったな
ヌルル
ハメてやるから
ケツこっちに
向けろよ
プハッ
あ…
ニュプ…
あッ♡
あッ♡
あッ♡
ヌプププ…
ほおら
入った…
ヌプンッ
ビクッ
ビクッ
あはあッ♡
ビクッ
硬ぁいッ♡
ダクッ

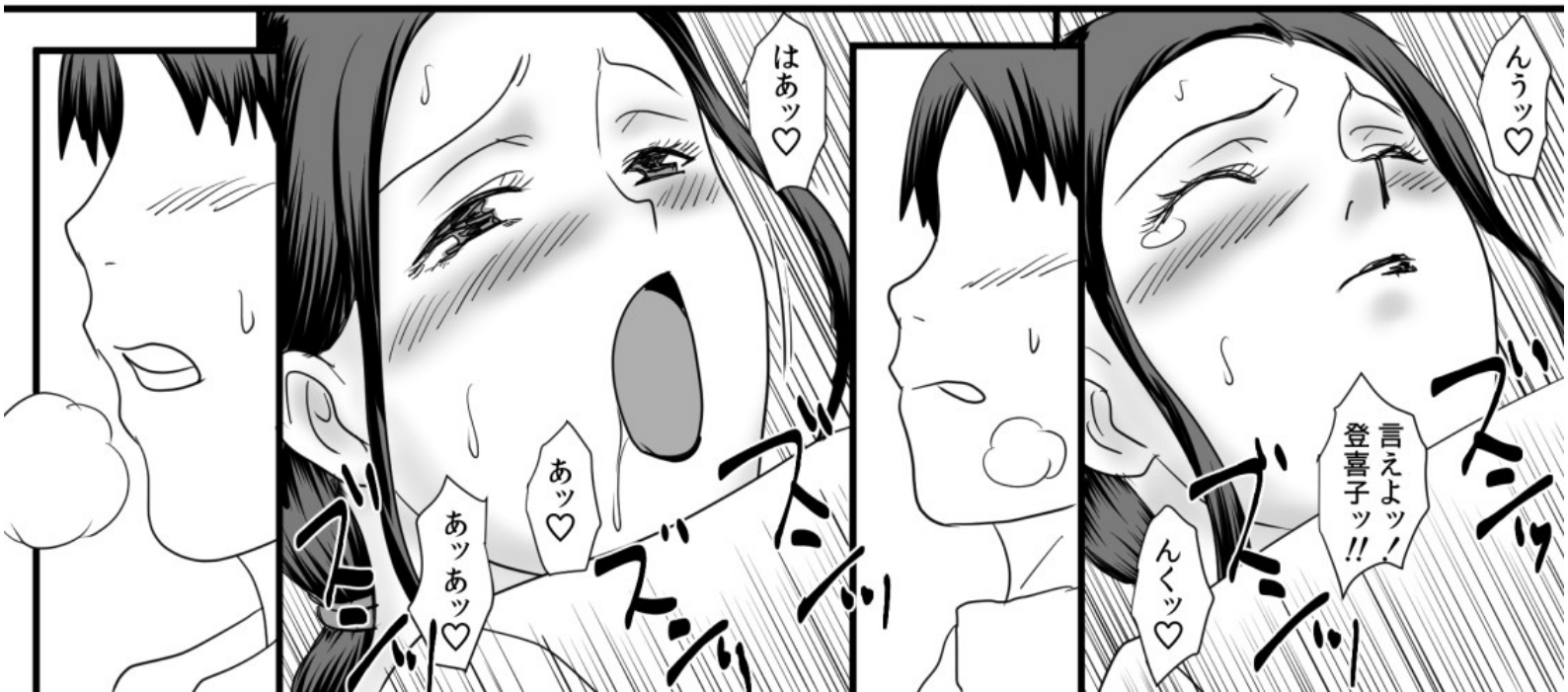

や…ッ♡
あッ♡
すごぉいッ♡
奥の気持ちイイ所にすごい当たるのッ♡
脅されて仕方なくとかじゃなかった…
そこには犬のような格好で裕也のモノを受け入れて悦ぶ女の顔をした母さんの姿が映し出されていた…
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
あッお…ッ♡
あおおお…ッ♡
ズリュッ
ズンッ
ズリュッ
裕也のモノが出入りするたびに母さんのアソコは湿った音を立てる…
はッはッ♡
あッ♡
はあんッ♡
あの母さんがあんな蕩けた表情や甘えた声を出すなんて…
何度も裕也に抱かれて開発されてしまったのか…
ズンッ
ズンッ
ズンッ


普段の母さんからは想像も出来ないようなはしたない姿勢で裕也に跨り夢中で腰を打ちつけて気持ちヨガル…
あうッ♡
あうッ♡
あうッ♡
おうッ♡
ビタンッ
ビタンッ
ビタンッ
ビタンッ
ビタンッ


母さんがこんなに淫らな女性だったなんて知らなかった…知りたくなかった…
あッ♡
あッ♡
イイッ♡
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ


息子の友達相手に気分出しやがってドスケベ女が…
俺との関係が貴博にバレて別れろなんて言われたらどうすんだ?え?
あ…あッそんな…ッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ


俺と貴博のどっちを選ぶかって聞いてんだオラッ!!
ひあぁッ♡
あッあッ♡やッあッ♡
ぎゅっ
がくっがくっ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ


んうッ♡
言えよッ!登喜子ッ!!
んくッ♡
はあッ♡
あッ♡
あッあッ♡
ズンッ
ズンッ
ズンッ


裕也君を選びますッ♡
貴博を捨てて
裕也君の女として
生きますッ♡
あッあッ♡
裕也くぅんッ♡
イク――ッ♡


母さんは本気で
言ったんだろうか…
二人の関係がバレたら
僕を捨てる…
フラ…


裕也に抱かれて
激しく乱れる母の姿を
見た興奮で硬くなっていた…
気がついたら僕の股間は
この世で一番大切な母を
裕也に奪われた悔しさと…
ビクッ
ビクッ


それを確かめる方法はひとつだけ…
裕也と同じように
このカラダに聞けばいいんだ…